

俳句ポスト365

2020 -2021 作品集

haruya mukashi jugomangoku no joka kana Shiki Masaoka 大方 昔

子の

制作 松山市 http://haikutown.jp/

俳都松山 俳句ポスト365 2020-2021 作品集

─ 掲載回一覧・選者 夏井いつき ─

		投句募集期間	選句結果掲載日	投句数/投句人数
第236回	蕨餅	2020/1/23 ~ 2020/2/5	2020/3/9 ~ 2020/3/13	8318 句 / 1577 人
第237回	蒸鰈	2020/2/6 ~ 2020/2/19	2020/3/23 ~ 2020/3/27	7474 句 / 1516 人
第238回	ボートレース	2020/2/20 ~ 2020/3/4	$2020/4/6 \sim 2020/4/10$	7413 句 / 1487 人
第239回	春暖	2020/3/5 ~ 2020/3/18	$2020/4/20 \sim 2020/4/24$	8761 句 / 1663 人
第240回	かめじょ おん	2020/3/19 ~ 2020/4/1	$2020/5/18 \sim 2020/5/22$	7903 句 / 1558 人
第241回	ja ši 鰻	2020/4/2 ~ 2020/4/15	$2020/6/1 \sim 2020/6/5$	7835 句 / 1598 人
第242回	神雨寒	2020/4/16 ~ 2020/5/13	2020/6/15 ~ 2020/6/19	10065 句 / 1822 人
第243回	かわせみ 表契	2020/5/14 ~ 2020/5/27	2020/6/29 ~ 2020/7/3	8572 句 / 1655 人
第244回	プール	2020/5/28 ~ 2020/6/10	2020/7/13 ~ 2020/7/17	9086 句 / 1747 人
第245回	^{せみ}	2020/6/11 ~ 2020/6/24	$2020/7/27 \sim 2020/7/31$	10086 句 / 1816 人
第246回	藤袴	2020/6/25 ~ 2020/7/8	2020/8/24 ~ 2020/8/28	8650 句 / 1661 人
第247回	野分	2020/7/9 ~ 2020/7/22	2020/9/7 ~ 2020/9/11	9178 句 / 1751 人
第248回	唐辛子	2020/7/23 ~ 2020/8/19	2020/9/21 ~ 2020/9/25	10496 句 / 1852 人
第249回	秋晴	2020/8/20 ~ 2020/9/2	2020/10/5 ~ 2020/10/9	10184 句 / 1834 人
第250回	g 紫	2020/9/3 ~ 2020/9/16	2020/11/2 ~ 2020/11/6	9205 句 / 1751 人
第251回	çzb 嚏	2020/9/17 ~ 2020/9/30	$2020/11/16 \sim 2020/11/20$	9784 句 / 1882 人
第252回	熱燗	2020/10/1 ~ 2020/10/28	$2020/11/30 \sim 2020/12/4$	6586 句 / 2014 人
第253回	鮫	2020/10/29 ~ 2020/11/11	$2020/12/14 \sim 2020/12/18$	9103 句 / 1707 人
第254回	寒海苔	$2020/11/12 \sim 2020/11/25$	$2021/1/11 \sim 2021/1/15$	9092 句 / 1740 人
第255回	r.h	$2020/11/26 \sim 2020/12/9$	$2021/1/25 \sim 2021/1/30$	9197 句 / 1752 人
第256回	きつね び 仏	$2020/12/10 \sim 2020/12/23$	$2021/2/8 \sim 2021/2/12$	10912 句 / 1798 人
第257回	春の夕焼	$2020/12/24 \sim 2021/1/20$	2021/2/22 ~ 2021/2/28	11869 句 / 2025 人
第258回	いそぎんちゃく 磯巾着	2021/1/21 ~ 2021/2/3	$2021/3/8 \sim 2021/3/12$	10323 句 / 1834 人
第259回	^{そつぎょう} 卒業	2021/2/4 ~ 2021/2/17	$2021/3/22 \sim 2021/3/26$	11642 句 / 2027 人

第36回 2020年3月9日週掲載

蕨的 餅

にはとれないため、昨今では他の澱粉で代用されることが たもの。黒蜜ときな粉をまぶして食べる。蕨の澱粉は大量 《春》「わらびもち」。蕨の根茎から取った澱粉を練って蒸し

金星丘のなんてふくよか蕨餅 阿蘇鷲二

なわらび粉で作った「蕨餅」は、人々にとって早春の楽し 洗って精製されるのがわらび粉なのだそうです。 しかも10 みだったのですね。 キロの根からとれるのはたった70グラムだとか。その貴重 ると、掘り出した蕨の地下茎を厳寒期の冷たい水で何度も そもそもなぜ「蕨餅」が春の季語なのか。ものの本によ

らわれる部位なのだそうです。「なんてふくよかな金星丘で の親指の付け根のあたり。手相では、愛情や思いやりがあ しょう」という呟きに対する季語「蕨餅」も、いかにもふく 「金星丘」とは「きんせいきゅう」と読みます。手のひら

の訪れを喜ぶ心持ちや、黄粉や黒蜜の味わいとも響き合う。 物の「蕨餅」かも。「金星丘」という字面のもつ印象が、春 の掌かもしれませんね。大仏の見える茶店で頂いている名 豊かな取り合わせの一句です。 て下さった方の手のひらでしょうか。ひょっとすると、仏像 句中の「金生丘」は、愛情と思いやりをもって「蕨餅」を作っ

地

裏山は売ってはならぬわらび餅

ほろよい

春になれば蕨が沢山採れる「裏山」。地下茎を掘り出せば

か否か。季語「わらび餅」が飄々たる味わいです。 貴重なわらび粉だって作れるのだよ、と子や孫に言い置い ているのでしょう。「売ってはならぬ」の家訓は守られるの

蕨餅とせむとてこねる黒きもの 星埜黴円

のわらび粉ではないものが使われているのだとか。 私たちがスーパーで買う透きとおった「蕨餅」は、 本物

作者のコメント。 た言い方に可笑しみがあります。「結構腕力が要ります。火 からおろしても、数分こね続けるのが、コツだとか。」とは トのそれですね。「~とせむとてこねる」という持って回っ 掲出句の「黒きもの」は明らかに、わらび粉10パーセン

蕨餅練るとき土が起きる匂い

古田秀

の微細な観察眼も見事。 いでもあります。同時投句「蕨餅へこむ楊枝の刺さりぎわ てくるかのよう。「土が起きる匂い」は、待ちわびた春の匂 に違いありません。わらび粉の中の「土」の記憶が匂い立つ これも、わらび粉10パーセントの「蕨餅」を練っている

あはうみの匂ひにも似て蕨餅

大雅

の水をたたえた湖」。琵琶湖の水の匂いを思わせる雅な作品 は色々あったのですが、「あはうみの匂ひ」にも似ていると いう感覚が美しいと思います。「あはうみ」は「淡海=淡水 「蕨餅」に対して、水のイメージや匂いを取り合わせる句

今できてすでに古色の蕨餅 龍田山門

モアがあります。 「蕨餅」 ならでのはよろしさ。 語順が巧い 記されています。「今」できたばっかりなのに、その色合い は「すでに古色」であるよ、という言い回しにおおらかなユー 「蕨餅」は、醍醐天皇の好物でもあったと、ものの本には

> つちのこの目玉はこんなわらび餅 ことまと

ですね。同時投句「おそらくは単細胞の蕨餅」の発想も愉快。

部分がふくれている蛇みたいな動物だそうです。 「つちのこ」は、生息すると伝えられる未確認生物。胴の

思った瞬間の呟きだったのかもしれません。「こんな」の後に、 小さな驚きが読み取れて、クスっと笑ってしまいました。 を初めて見て、いつもの透きとおった蕨餅とは違ってる!と ひょっとすると、わらび粉10パーセントの「わらび餅」

山神の尻子玉とも蕨餅

<"

玉を抜かれる、なんて言葉もあります。抜かれた人間は腑 餅」がお気の毒。「とも」との言い方に含みがあって、飄々 たのでしょうが、「山神の尻子玉」 みたいだといわれては、「蕨 わらび粉10パーセントで作った「蕨餅」の色に衝撃を受け 抜けになるとか、死んでしまうとかと言い伝えられています 「尻子玉」とは、肛門にあると想像された玉。河童に尻子

蕨餅御堂をひどく歩かされ

ふるてい

をひどく歩かされ」疲れ果ててしまいましたよ。その後で れませんね。 るとはねえ~なんて笑いながら、お茶を頂いてるのかもし いただいた「蕨餅」の美味しさ。まさかあんなに歩かされ 軽い気持ちで見学し始めたのだけれど、なんとも「御学

駆け落ちをすっぽかされて蕨餅

s o 1

こない。腹いせに食べる名物の「蕨餅」でしょうか(笑)。 するはずだったのに、肝心の相手がいつまで経ってもやって しまった人もおります。この茶店で待ち合わせて「駆け落ち」 お堂を歩かされるどころか、「駆け落ちをすっぽかされて」

わらびもち祖母の仕事は居ることだ 柚木みゆき

それも作れなくなってしまったのか。
「祖母」の得意が「わらびもち」だったのか。でも、今は

の幸せでもあります。と言い切ってくれる孫が「居る」こと。それがこの「祖母」ることが「仕事」なんだから。「祖母の仕事は居ることだ」でも、良いのです。大好きな「祖母」はそこに居てくれ

第23回 2020年3月23日週掲載

蒸鰈がれい

もの。 《春》「むしがれい」。鰈を塩水でさっと蒸し、陰干しにした

天

晋山や花の白さの蒸鰈

一阿蘇鷲

いる名物。皇室にも献上される品です。出し、陰乾にすること数日にして炙り食らふ」と記されて默」。ものの本には「塩水をもって蒸し、半熟せしめて取りいありません。この地のこの寺で迎える春の風物の一つが「蒸最初の春。晋山式を始めとして数々の気苦労もあったに違一寺の住職となることを指します。「晋山」を無事終えての一等の住職となることを指します。「晋山」を無事終えての「晋山」は「しんざん」と読みます。僧侶が初めて正式に

まさに「蒸鰈」の逸品です。
を喜び、上質の酒一献も楽しむ。鰈でもなく、干鰈でもない、調が、季語「蒸鰈」を美しく描きます。花を愛で、「蒸鰈」の象が重なります。「晋山」「花」「白」の言葉が織りなす格の場でありましょうか。「白」の一字は、塩の白さ、清廉さともでありましょうか。「白」の一字は、塩の白さ」にも似た「蒸鰈」

などと、無粋なことはおっしゃいますな。同時投句「朝の僧侶は酒を飲んでよいのか、ナマモノを食ってよいのか

を楽しむのも一興でございますよ。湯まで頂き寺の蒸鰈」のような宿坊にて、桜と鰈と般若湯

地

むしがれひ若狭の雨は骨を研ぐ 蟻馬次朗

「若狭」と具体的な地名を入れると、季語「むしがれひ」「若狭」と具体的な地名を入れると、季語「むしがれひ」の平仮名のたおやかさな味わいも見事ける「むしがれひ」の平仮名のたおやかさな味わいも見事ける「むしがれひ」の平仮名のたおやかさな味わいも見事は、です。同時投句「柳むしがれひの首がもげてゐる」も飄々との親和性がぐんと高くなります。「若狭の雨」は、花冷えとの親和性がぐんと高くなります。「若狭の雨」は、花冷えとした確かな作品。

観音の腕長うして蒸鰈

小野更紗

作品を下敷きとしています。を思い浮かべます。当然のことながら掲出句は、森澄雄の「蒸鰈」というと、森澄雄の名句「若狭には佛多くて蒸鰈」

味わい直します。
歌取りにしていると分かる。すると読者の脳は、一句を再び順が巧いですね。軽く一読した後、あ、これは森澄雄を本音の腕長うして」という描写から「蒸鰈」へと展開する語音、仏像と「蒸鰈」の取り合わせの句は沢山届きましたが、観

との丁寧な描写。本歌取りのお手本のような作品です。「観音」へ焦点がぐーんと絞られ、その仏像の「腕長うして」「佛多くて」と詠まれた「若狭」の地の寺の御堂の内の

蒸鰈五枚で女仏くれまいか 月の道馨子

惚れ込んだ骨董品なのか、宿を借りた貧乏寺での会話か。その「女仏」をくれないだろうかと持ちかけているのです。皇室にも献上する「蒸鰈」だぞ。これを「五枚」やるから、ローチが全く違う。その発想が実に面白い作品です。こちらも森澄雄を本歌取りしているのでしょうが、アプ

面白くなってきます。

はたまた「女仏」は実際の女を意味するか。読めば読むほど、

蒸がれい塩かがやける御食国

ちゃうりん

貢いだと推定される国を指す言葉」と解説されています。廷に海水産物を中心とした御食料(穀類以外の副食物)を本古代から平安時代まで、贄の貢進国、すなわち皇室・朝「御食国」は「みけつくに」と読みます。ネット辞書には「日

誇りを表現した措辞。「蒸がれい」も「塩」も美しい春です。いるそうです。「塩かがやける」は「御食国」である歴史と「若狭の「蒸がれい」は、令和の今でも皇室に献上されて

蒸鰈きよら角鹿の神の塩

一斤杂乃

なのが「角鹿」という地なのです。 「角鹿」という地なのです。 「角鹿」は「つぬが」と読み、越前国敦賀の古い呼び名な 「角鹿」は「つぬが」と読み、越前国敦賀の古い呼び名な

蒸鰈おなじあじする鬼の角 ちま(5さい)

する鬼の角」が深い意味をもってくるような気もしてきます。前出句の古い地名「角鹿」を知ってみると、「おなじあじ

むしがれひ邑あまいろに老いてゆく RUSTY

味わいが変わっていきます。「むしがれひ」も塩蒸しし陰干むら」などがあります。どの訓読みを選ぶかによって一句の「邑」は音読みは「ゆう」ですが、訓読みは「くに、みやこ

をもたせた平仮名書き。 句「とよあしはらのみづほのくにのむしがれひ」は、格調切「とよあしはらのみづほのくにのむしがれひ」は、格調判断もさすが。全てに心に行きとどいた作品です。同時投まいろ」の一語の選択はもとより、この位置にこの語を置くまいろ」の一語の選択はもとより、この位置にこの語を置くはにすると「あまいろ」に変化していきますが、かつてはしにすると「あまいろ」に変化していきますが、かつては

九頭龍は雲の眷属蒸鰈

神山刻

が雄大です。

「九頭龍」は、九頭龍信仰の鬼でしょうか。ものの本によ「九頭龍」は、九頭龍信仰の鬼でして、「学門」という名のをと「西暦80年代の中盤頃の話として、「学門」という名のると「西暦80年代の中盤頃の話として、「学門」という名のが雄大です。

薬師仏の十二神将、不動明王の八大童子の類。るもの。一族。親族。② 従者。家来。③ 仏や菩薩に従うもので「眷属」には三つの意味があります。 ① 血のつながりのあ

の茹でこぼし」も神話的雄大さ。の茹でこぼし」も神話的雄大さ。同時投句「蒸鰈波濤は神していきたくなる堂々たる作品。一句の向こうに、九頭竜川していきたくなる堂々たる作品。一句の向こうに、九頭竜川の遙かな川波まで見えてきそう。同時投句「蒸鰈波濤は神の遙かな川波まで見えてきそう。同時投句「蒸鰈波濤は神の遊でこぼし」も神話的雄大さ。

蒸鰈なんてあんたの式以来

あいだほ

浮かんできます。れた若狭には、何の用があったのか。さまざまな筋書きがの美味しさに驚いたのが、結婚式のお膳。そして、再び訪娘が嫁いだ先が若狭なのでしょうか。初めて食べた「蒸鰈」との十七音が、そのまま家族のドラマになっています。

ができるのも俳句という詩型の力なのだなと、嬉しく拝読たった十七音なのに、短編のような味わいがある。それ

[[

第38回 2020年4月6日週掲載

ボートレース

《春》明治期以降、各地で開催されているレガッタなどのボーとして定着した。

天

水平は恍惚に似てボートレース さとけん

光景も印象的に思い出されます。
「でき満ちる湖岸や凪いだダム湖を滑るようにゆくボートの田川の早慶戦にちなんで春の季語となっていますが、桜の競艇ではありません。オールを使って漕ぐボートです。隅季語「ボートレース」は、轟音と水煙を上げて疾走する

春の静かな水面も見せてくれる。見事な作品です。という措辞は「ボートレース」の瞬間を見事に切り取りつつ、この動きは「恍惚」とはなり得ない。「水平は恍惚に似て」美しさなのです。勿論、クルー全員の息が合っていないと、角度でオールが「水平」となる。これが見飽きないほどの角度でオールが「水平」となる。これが見飽きないほどのがます。空気抵抗を防ぐためです。全く同じ速度、同じ水を漕いだ後、全てのオールはくるっと回され「水平」にボート競技の美しさに心動かされるのは、オールの動き。ボート競技の美しさに心動かされるのは、オールの動き。

地

競漕や水を起こさぬやうに削ぐ いなだはまち

水を脅かさないように「起こさぬやうに」静かに水面を「削上手い選手は、水しぶきをバタバタあげたりしません。

られる表現。一物仕立ての逸品です。ぐ」のです。オールの動きをじっと観察してこそ手に入れ

張った人たちも沢山いたのですが…… 今回、「競漕」の櫂の動きを一物仕立てで表現しようと頑

競漕の一糸乱れぬ櫂さばき 村上 無友競漕の一糸乱れぬ櫂捌き 石井茶爺

ボートレース一糸乱れぬ櫂捌き あつむら恵女競漕や一糸乱れぬ櫂さばき 風紋

て根気よく季語と対峙するしかありません。です。「一糸乱れぬ」のような慣用句に依存せず、腹を括っ言ってることですが、一物仕立ては徹底した観察しかないの他にも「一糸乱れぬ」句が山のように届きました。いつも

血管の怒れるボートレースの腕 ちびつぶぶどう

がニョッキリと出てくる語順。この判断が成功しました。れる」かのように膨れ上がっているのです。下五の最後に「腕」です。「ボートレース」の太く鍛えた「腕」の「血管」は、「怒水を起こさないように漕ぐためには、腕力と技術が必要

ボートレース帽子目深に返す櫂う

「櫂」の映像を残す語順も的確。目線が、中七下五に読み取れるような気がします。最後に象ですが、シングルスカルを思いました。自分との戦いのほど「帽子」を「目深」にかぶっている選手。個人的な印は、「帽子」を「目深」にかぶっている選手。顔が見えない地味な句ですが、丁寧に観察しています。顔が見えない

ボート競技らしい把握です。 当時投句「ボートレース水尾は「未来」の字のごとく」も:

ボートレース二番は肘を痛めたか 山名凌霄

「二番は肘を痛めたか」という呟きがレースの全てを語り得じっと見ていると、どうも「二番」の櫂の動きがおかしい。さっきまで快走していた艇が急に失速したのでしょうか。漕ぎ手には一番、二番とポジションの呼び名があります。

ていて、実に巧いです。

ぽい具体性があります。 同時投句「漕艇やオールは乳首まで引け引け」は経験者っ

競漕来眼前の艇の長きこといさな

てみることが肝要です。 「競漕」の艇が、我が「眼前」を通過しようとしているの 「競漕」の艇が、我が「眼前」を通過しようとしていると感じなかったのだけれど、水面をです。遠目で見ていると感じなかったのだけれど、水面を「競漕」の艇が、我が「眼前」を通過しようとしているの 「競漕」の艇が、我が「眼前」を通過しようとしているの

同時投句「競漕や天へと返す櫂の先」も丁寧な観察。

ボートレースこの橋までよし二十秒 常幸龍BCAD

が「ボートレース」らしさを補強しています。う台詞だけならば様々な競技にも使えますが、「この橋まで」えているコーチの言葉かもしれません。「よし二十秒」とい通過するのが最初の関門。橋の上でストップウォッチを構レースの作戦として、まずは「この橋」を「二十秒」で

情を表現した「猛る」ですね。 同時投句「ボートレース寄せ書きの旗猛る」は、風と心

橋抜けて競漕の艇入れかはる

ほろろ。

じです。

「橋」を抜けてみると首位が入れかかわっていることに気に続い。実況中継の巧いアナウンサーは、状況を説明するのない。実況中継の巧いアナウンサーは、状況を説明にはなっていと複合動詞を使った描写ですが、決して説明にはなっていづく。これも観察の一つです。「抜けて~入れかはる」動詞ではなり、一緒」を抜けてみると首位が入れかかわっていることに気

ボートレース審判艇に抜かれけり

はむ

俳人としての地力です。
「審判艇」はそれぞれの艇がコースを外れないよう見守り「審判艇」はそれぞれの艇がコースを外れないよう見守りと切り取れるのが、の要に応じて注意を伝えます。状況によっては、上位の艇必要に応じて注意を伝えます。状況によっては、上位の艇がコースを外れないよう見守り

|描写。 |同時投句「ボートレース半艇身を差し切れず」も具体的

ボートレース濡れそぼつまま擁きあへり 古田秀

う。せん。遠くから見つめる観客の視点で切り取った一句でしょせん。遠くから見つめる観客の視点で切り取った一句でしょなります。下五「擁きあへり」は勝者の抱擁に違いありまましたが、水に雨に光に涙にと、さまざまなイメージも重「濡れそぼつまま」の表現から、雨催いのレースを想像し

競漕を終えし両艇相寄りぬ くりでん

思わせてくれる作品です。「競漕を終え」てからの観察。ゴールを争った「両艇」が「競漕を終え」てからの観察。ゴールを争った「両艇相寄お互いの健闘をたたえて、近寄っていくのです。「両艇相寄お互いの健闘をたたえて、近寄っていくのです。「両艇相寄

戦した客たちかな。 同時投句「競漕の余韻の尽きぬ銀座線」は、早慶戦を観

第39回 2020年4月20日週掲載

春 **暖**

の暖かさのことをいい、気候に関わらない暖かさは季語とでも春の季語となる。季節の変化によって生じる春の気候《春》「春」と付いてはいるが、単に「暖か」と言った場合

ならない。

春暖のおもさマカロンふたつ分 ぐでたまご

響きを楽しく捉えています。この句は名詞であることを巧みに使い、さらに「春暖」のこの句は名詞であることを巧みに使い、さらに「春暖」のいと捉えるかで、1句の味わいが変わってくることです。しゅんだん」=拗音と撥音の響きを、硬いと捉えるか、楽季語「春暖」の特徴は名詞であること。そして「春暖=季語「春暖」の特徴は名詞であること。そして「春暖=

カロン」を見るたびにこの句を思い出しそう♪ 手のひらに載せているかのような詩的実感があります。「マを思い浮かべると、映像を持たない時候の季語「春暖」を、快。「マカロン」の明るく多彩な色合い、「ふたつ分」は実に愉快。「マカロン」の明るく多彩な色合い、「ふたつ分」は実に愉快。「マカロン」があるのですが、そのお手本勝手に単位を作る、というのがあるのですが、そのお手本のような作品です。「辞して、「おもさ」があるのような作品です。「本

地

春暖や百年匂ふ正露丸

ハきな歌吟

です。「正露丸」独特のツーンとくる匂いって「暖か」だのです。「正露丸」独特のツーンとくる匂いって「暖か」だまさ、腹下しをおさえ、痛みをやわらげる効果を思えば、大きさ、腹下しをおさえ、痛みをやわらげる効果を思えば、 しては成立します。「正露丸」の黒い粒、丸さ、 るうか、と。

読みを、音の堅さと捉えての取り合わせが成功しました。変わることなく「百年匂ふ」という措辞。「春暖」という音大いなる意図は中七にあります。過去現在未来においても、作者が「春暖」と「正露丸」を取り合わせようとした、

ふ正露丸」というような方向になっていくのではないかとちなみに、季語が「暖か」であれば「暖かやころころ匂

笑い上戸来たる喫煙所は春暖

そこにいる全員が笑っていそうですものね。 も「春暖」ではないかと思います。仮に下五が「暖か」だと、 と、そっぽ向く人もいそう。その曖昧かつ中途半端な気分 の笑いに誘われ、ほっこりする人もいれば、なんやコイツは てるのが「喫煙所」の印象ですが、そこに現れた「笑い上戸」 味と独自性があります。知らない人たち同士が無口に集まっ な人物がやってきたのが「喫煙所」だという場面に、

真実 下五を名詞止めにする型にも有効な季語です。「笑い上戸」

感情が読み取れて印象的 同時投句「春暖や砂場は母を待つにほひ」も、揺れ動く

どか弁の沢庵のけて

ウロ

下五は一拍目の空白+「春暖」四音を足して五音という構成 作も見えるよう。最後にぽつんと出現する「春暖」の響き り敷き詰められているのでしょう。「沢庵のけて」の後の一 になります。「どか弁」の大きな弁当箱には、御飯がぎっし に飄々とした俳諧味があります。 マスに、沢庵の黄色い跡が見え、一拍おいて飯をかき込む動 一マス空白をあけるという挑戦。上五中七は定型を守り、

春暖やかつて一ドル三百円

きよなお

る「春暖」です。 冬という塊が去っての春を、悲喜交々しみじみと受けとめ すが、「かつて一ドル三百円」だった時代を知ってる人、現 暖」の微妙なニュアンスに思い当たるものがあるのでしょう。 在の円高に複雑な感情を抱いている人だからこそ、季語「春 こんな取り合わせってありか? と笑ってしまったので

春暖迫り来るバイソン顔でかい

ですが、個人的好みでは、「春暖」という生き物の「心臓 と読みたいです。 「春暖」の頃のワタクシの「心臓」と読むこともできるの

です。 クドクと脈打ち始めます。春が春としての心拍を打ち始め なっていくのです。春が進むにつれて「春暖の心臓」はド た証拠に、「春暖」は「てふ=蝶」の「かげ」を「放つ」の 暖かくなったり寒さがぶり返したりしながら、春は春と

えてやりたいくらいの高度なテクニックです。 季語「てふ」を脇役とする工夫は、梅沢のおっちゃんに教 映像のない時候の季語「春暖」を主役とし、実態のある

春暖であろう土偶の産み月は

くりでん

その「土偶」が子を産み落とすのは、「春暖」の頃に違いな いという発想に惹かれます。 「土偶」の中には異様に腹が膨らんでいるものがあります。

性もあるのだと気づかせてくれた一句です。 語「春暖」のなかには、「産み月」という腥い言葉との親和 「春暖であろう」から始まる倒置法が、散文臭を払拭。季

春暖の歯ブラシを待つ鰐の口 かのたま

ろの名詞を限定し性格付ける、という使い方もできます。「歯 ラシ」ですよと性格付けをするのです。 ブラシ」は一年中そこにあるのですが、これは「春暖の歯ブ 名詞である「春暖」は「春暖の○○」というふうに、後

開けてる様子は、なんだかほのぼのします。それが「春暖 ります。鋭い歯はなんだか危険そうですが、無防備に口を という気分でもあるのでしょう。 を待つ」ですから、いつも磨いてもらっていることが分か 「鰐の口」がガバッと二等辺三角形に開いています。「~

蟻馬次朗

「春暖迫り来る」とあるので、「春暖」という季節が迫り

春暖の心臓てふのかげ放つ

ぐ゛

似合わないなと思った瞬間に、「バイソン顔でかい」と展 という音の響きも共鳴します。 と正直な感想を呟いてるのが可笑しい。「春暖」「バイソン」 れるでもなく、こいつの「顔」ってこんなに「でかい」のか! 開。みるみるうちに迫り来る「バイソン」の勢いに気圧さ 来るのかと一瞬思わされます。この季語に「迫り来る」は

大尿して春暖の象のほと ウェンズデー正人

すが、季語を中七にもってくるのは、なかなか難しかった ようです。この句は「春暖」を中七に置くことで、映像を 巧みに構成しています。 季語「春暖」と生き物を取り合わせる句は多かったので

き物の腥さ、生々しさをも受けとめるのですね。 映像が実に強烈。季語「春暖」は「象」のような大きな牛 のほと」は下の語へ下の語へと意味を限定し、最後に「ほと」 「陰」(女性器を意味する単語)を大写しにします。この 「大尿」から始まるインパクトは勿論ですが、「春暖の象

くり」は「油」の質感であり、「春暖」の感触でもあります 同時投句「春暖や斧にとくりと差す油」オノマトペ「と

春暖の地にショッカーはのびている けーい〇

カー」の響き合いも面白いですね。 まさか「ショッカー」が出てくるか!と爆笑。「春暖」「ショッ

で「のびている」しかないのです。 にやっつけられた「ショッカー」たちは、監督からの「カッ の地」は、冬が終わった「春」を印象づけつつ、「暖か」を ト!」という声を聞くまで、「春暖の地」にそのままの格好 はのびている」、なんとも間抜けな感じになります。「春暖 「地」の感触、皮膚感として伝えます。撮影現場。 仮面ライター 仮に季語を「暖か」に替えると「暖かな地にショッカー

たにしました。勉強させていただきました。皆さん、あり 曖昧かつ複雑なニュアンスを受けとめる性質があることに 気づきます。結構興味深い傍題であったのだと、認識を新 こうやって考察してみると、季語「春暖」は暖かに比べて

第40回 2020年5月18日週掲載

姫女苑

花を多数つける。 《夏》「ひめじょおん」。北米原産のキク科の二年草。高さ約 1m。6~10月、周囲が白色で中心が黄色い2㎝程の頭状

トランプの王妃は四人姫女苑

姫女苑と春紫苑。花のカタチも似ていて区別が付きにくいますがある。 花伝

の一字にイメージをのせていく発想もあっていいでしょう。 いのですが、俳句として違いを表現しようとする時、「姫」 白い発想にきましたね。スペード・ハート・ダイヤ・クラ 「トランプの王妃」つまりクイーンとの取り合わせとは、面 人物、英・米では王妃なのだということを、私は今回初め フに描かれている女性たちは、仏蘭西では女神や聖書上の

取り合わせの技法における「付かず離れず」の妙を、楽し 色もまた「姫女苑」の印象とふれあうのかもしれません。 感じですが、エース・キングに継ぐ力を持つ誇りも抱いて ませてもらった作品です。 いる表情。カードの白地と「王妃」たちの衣装の文様の黄 女苑」のように小ぶりで、慎ましく、心もち伏し目がちな トランプに描かれている「王妃」たちの顔は、確かに「姫

地

姫女苑太陽はいま換毛期

さとけん

夏の季感を表現する方向に舵を切った作品もありました。

の小さな白が「換毛」の羽のイメージにもかさなって。 に入っているよという発想が新鮮。初夏の眩しさ、「姫女苑 陽はいま換毛期」という比喩が巧いですね。鳥や獣の毛が 生え替わり、次の季節を迎えるように「太陽」も今「換毛期 「姫女苑」に「太陽」を配した句は他にもありましたが、「太

黒板消し落とした姫女苑は無事 あいだほ

な記憶かもしれません。 なく、「姫女苑」のことを思ってしまう心根が、俳人だな。 に落ちたのでしょうが、「姫女苑」は折れるでもなく「無事 季語「姫女苑」との出会いから蘇った、学生の頃のリアル に揺れています。落とした「黒板消し」を心配するのでは しまい、ハッと下を見る。「姫女苑」の群れ咲いている辺り ンパン叩いていたのでしょう。勢い余ってうっかり落として 学校のお掃除の時間です。二階の窓で、「黒板消し」をパ

泥蜂の踏みぬく姫女苑の花片

さるぼぼ @ チーム天地夢遥

確に見えてきます。 の独特な黒と黄色の体。「姫女苑」の白と黄色との対比も明 の質感も表現できています。ただの「蜂」ではない「泥蜂 ていますが、このような季重なりは全く問題ありません。 「蜂」の足元を「踏み抜く」と描写することで、「姫女苑の花片 観察から生まれた写生の一句。勿論、「蜂」という季語も入っ

ひめぢよをん影のすみずみまで尖り すりいぴい

私は思うのです。 態度が生まれ、その影の「すみずみまで」が切なく尖って な花の集まりなのだそうです。 花弁にみえるもの一つ一つが この花の特徴の一つは頭状花序。花に見えるものは、小さ いることに気づく。これもまた、季語との豊かな交信だと. 花であるという認識から、「ひめぢよをんの影」を観察する 「ひめぢよをん」だけをじっと観察した純正の一物仕立て。

姫女苑花びら廻すねじはどこ

日出時計

びら」が回り出しそうな気がしてきます。「花びら廻すねじ どこか「ねじ」があって、それを捻るとゼンマイ仕掛けで「花 はどこ」という可愛い問いかけは、まさに童心の言葉ですね 「姫女苑」の素朴な「花びら」のカタチを思うと、ほんとに

ぢよをんぢよをんとうしはゆばりすひめぢよをん 山名凌霄

見事作者の狙い通り成功しています。 ぢよをん」が群れ咲いているのです。平仮名のマジックは どう読むのだ?と、読者はこの句の前に立ち止まります。 この字面を活かそうとする発想もありました。一体これは は尿です。牛が盛大におしっこをしていて、そこに「ひめ 「ぢよをんぢょをん」はオノマトペ、「うし」は牛、「ゆばり」 「姫女苑」を歴史的仮名遣いで書くと「ひめぢよをん」。

ほじょりんのががががひめじょおんははは

うか。「ひめじょおん」は笑うように「ははは」と風に揺れ がが」と鳴っているのは、草原でしょうか、土手の道でしょ 自転車だと分かります。子どもの自転車の補助輪が「がが 遣いですね。「ほじょりん」は補助輪、この一語で子どもの こちらも全部平仮名ですが、「ひめじょおん」は現代仮名

すきとあいなにがちがうの姫女苑

作品だなあと思います。 と違った基準を当てはめることはしないのですが、この句 は7歳のむらさきちゃんの率直な問いだからこそ味わえる 俳句の選をする時、私は「大人だから」「子どもだから」

言葉はちょっと違うらしい。「すきとあいなにがちがうの」 ママのこともパパのことも「すき」だけど、「あい」って

体なんと答えるのでしょう。という可愛い疑問に、素朴で可憐で強かな「姫女苑」は、一

姫女苑猛り静かな電気柵

にゃん

です。 畑を耕す人たちにとっては、とても迷惑な植物でもあるの種が35年も生きてるというのですから、ほんとに驚きます。可愛く見える「姫女苑」ですが、その繁殖力は驚異的。

女苑」に絡め取られている「電気柵」。この光景も印象的です。から畑を守る「電気柵」もまた静かにそこにあります。「姫女苑」の「猛り」はまさに静かな猛りであり、猪や猿

除染袋の間より生ふ姫女苑

星埜黴円

「除染袋」の一語で、私たちは黒い袋が果てしなく並ぶ禍々「除染袋」の一語で、私たちは黒い袋が果てしなく並ぶ禍々があるのでしょうか。

第24回 2020年6月1日週掲載

鰻ダタをダ

日には夏負けの対策として食される。のため川から海に下り、春先に再び川を上る。土用の丑の《夏》ウナギ科の魚。東アジア各地に分布。秋から冬に産卵

よぢりの果の此処が鰻の首根つこ いかちゃん

句は山ほどありますが、表現をよく工夫しています。飛び込んできたのがこの句。「鰻」がクネクネ逃げるという物仕立てにキャッチャーミットを構えておりました。そこに「鰻」は動物に分類される季語なので、今回は「鰻」の一

を関いて、これまた巧いものです。 を掴む動きを見せるの「鰻」が登場する語順。これが二クいのです。「此処が~の「鰻」が登場する語順。これが二クいのです。「此処が~の感触を渡すのですから、なかなかのもんです。「此処が~の感触を渡すのですから、なかなかのもんです。「此処が~のが慢」が登場する語順。これが二クいのです。「此処が~のがしているのと思わせておいて、読み終わってみれば映像化がなされていることに気がの悪の「農」が登場する語順。これが二クいのです。「此処が」ってどこ?」と

には、これまた巧いものです。

した。 「うなぎ焼け焼け黒船の葡萄酒なぞ」も自在で

地

鰻筒泥の花湧く水底へ

斗三木童

のが定石でしょう。
はそれらを捕る現場も、季語の成分に含まれると判断する
題として載っています。食べられる生き物、特に魚類貝類
いる『カラー版新日本大歳時記』(講談社)には、「鰻」の傍い

の動きをしっかりと見せてくれます。最後の「水底へ」の「へ」も佳い選択。沈んでいく「鰻筒」比喩し「湧く」と描写することによって、詩が生まれます。よって川底の泥が動いているだけなのですが、「泥の花」と「鰻筒」は鰻を捕獲するための道具。それを沈めることに「鰻筒」は鰻を捕獲するための道具。それを沈めることに

が行き届いて。 同時投句「やかんから水飲む男うなぎ掻」の表記にも心

苔岩に顎すりつけて鰻掻く

三重丸

います。
れも季語情報の一部であると受けとめるほうが的確かと思います。このような歳時記の揺れを訝しむよりは、その揺ことに人事の頁にも「鰻掻」が独立した項目として載って「鰻掻く」も「鰻」の傍題に入っているのですが、面白い「鰻掻く」も「鰻」の傍題に入っているのですが、面白い

場証明があります。と湿った感触や、「顎すりつけて」という無理な姿勢にも現掻く」と動詞にしたことで生まれた臨場感。「苔岩」のぬるっこんな動作はしません。「鰻掻」と名詞にするのではなく、「鰻仏」と名詞にするのではなく、「鰻なった感触や、「鰻掻く」。さきほどの「鰻筒」ではさて、この句です。「苔岩に顎すりつけて」一体何をしてさて、この句です。「苔岩に顎すりつけて」一体何をして

うなぎの上のうなぎの上をうなぎうなぎ

すりいかい

の卵的な一句かも。ねちゃねちゃした音も聞こえてきました。れを書こうするか否か、書いたもん勝ちというコロンブスに入れられた「うなぎ」はまさにこのような状態です。こちょっとズルイぐらいに愚直な写生(笑)。捕獲され、樽

くねりたるうなぎ目釘を軸にして 仁和田 永

写生の眼をしっかりと持った作品ですね。と描写。これが書けるか書けないかが、勝負の分かれ目です。ざ」の断末魔ともいえるあの動きを「目釘を軸にして」と淡々この場面を描きたくて苦労した人たちもいました。「うな

同時投句「鰻捌かれ目釘に残りたる頭」も生々しい。

まな板の昏みは鰻の目打ち穴

トポル

読者の脳内に再生させる。これも俳人の力業です。と淡々と述べます。「鰻」の姿がないのに、「鰻」の存在を付いた「昏み」があるよ。これは「鰻の目打ち穴」なのだよってちらは「まな板」だけを描写しました。一力所、目に

に納得。 同時投句「銘酒屋の女のとる鰻丼てかる」の最後の動詞

万札に昏き緑や鰻めし

洒落神戸

同時投句「俎板の一寸足らぬ大鰻」は数詞の強み。庶民の憂いと喜びが揺れ動くのが、まさに「鰻めし」です。で切った後に出現するのが「鰻めし」だという展開の妙。握が「万札」の一つの特徴をよく描写しています。中七「や」握が「万札に昏き緑や」の「や」は強調。「昏き緑」という把

鞄には履歴書二枚鰻食ふ

中岡秀次

ちか。まずはこの「鰻」を力として、次の会社へ向かうのです。いってないのでしょう。「鰻食ふ」は景気づけか、やけっぱは会社に提出しているはずですから、なかなか思うようにでしょうか。就職活動がうまくいってるのならば、「履歴書」でしょうか。就職活動がきまくいってるのならば、「履歴書」でしょうか。まずはこの「鰻」を力として、次の会社へ向かうのでもの「製」に入っている「履歴書二枚」は再就職のためのもの「鞄」に入っている「履歴書二枚」は再就職のためのもの

中核派てふ過去とほし鰻喰う 月の道馨子

つ納得はしてない、そんな思いを匂わせます。「鰻喰う」は、真っ当な社会人となっている自分を肯定しつ「過去」を懐かしんでいるのか、思い出したくないものとしデモに参加し、警官に立ち向かった若き日の自分。そんなデモに参加し、警官に立ち向かった若き日の自分。そんなデモに参加し、警官に立ち向かった若き日の自分。そんな

鰻重や店に作業着俺らだけ

吉行直人

えてきて実にリアル。
重」がくるまでの時間を、居心地悪く持て余す男たちが見の、「店に作業着俺らだけ」という素の実感がいいですね。「鰻るのかもしれません。「鰻重」を意気揚々と人数分頼んだ後のかもしれません。「鰻重」を意気揚々と人数分頼んだ後に業が一段落した慰労の昼飯か。社長が奮発してくれて

同時投句「鰻焼ける煙音楽性の違い」も意外な展開の後

半が面白い。

室外機の熱に絡まる鰻の香

にこれも

恨めしく思われるものはないですよね(笑)。がとてもよいです。他人が食う「鰻の香」ほどうらやましく、ける不快感のみですが、下五「鰻の香」がでてきた瞬間に、ける不快感のみですが、下五「鰻の香」がでてきた瞬間に、います。「熱に絡まる」までは、湿気を含んだ熱風が吹き付います。「熱に絡まる」までは、湿気を含んだ熱風が吹き付います。「熱に絡まる」までは、湿気を含んだ熱風が吹き付います。「

同時投句「歌丸の古典聴きたし鰻食ふ」は粋です。

鰻飯平らげて寄席あと三本 ふるてい

ぺが楽しい。 同時投句「手の筒をぬぬぬと鰻抜け出しぬ」はオノマト

「毎年よ彼岸の入りに寒いのは」。有名なのが、母親の言葉をそのまま書いた正岡子規の一句誰かの話し言葉をそのまま書いても俳句になるのです。

の敢えての選択も、利いてますね。むかによって、味わいもまた微妙に変わります。最後の「?」いるのか、誘われているのか。どちら側に自分を置いて読席」を楽しんだ後、「上野で鰻なんてどう?」と誘いかけて、年ほどの寄席ネタの句とはまた味わいが違います。「寄先ほどの寄席ネタの句とはまた味わいが違います。「寄

なんとなく隣の席の鰻を見 きゅうもん@木ノ芽

だなと、微苦笑した一句です。
はウチと同じ梅だになど勝手に仲間意識を抱いたり。これが「鰻」というモノに席」を横目で眺めたり、あそこの「席」はウチと同じ梅だちょっと違う気がする。松だと思われるのが運ばれていくととってあるんだけど、「鰻」の場合は、いつものそれとは食堂やレストランで、ついついこんな態度をとってしまう食堂やレストランで、ついついこんな態度をとってしまう

違う違う鰻はこんな味じゃない 笠原理香

ならではの呟きだよと大共感した一句。い」と心の中で叫んでしまう、この喪失感。嗚呼、これも「鰻だったのに。一口食べてみて「違う違う鰻はこんな味じゃな無理して買った……スーパーの、デカいわりには安い「鰻苦らにこれを読んで爆笑。「鰻」が食べたくて、無理してさらにこれを読んで爆笑。「鰻」が食べたくて、無理して

第42回 2020年6月15日週掲載

梅雨寒

さらに冷え込むこともある。むことをいう。地域によっては北からの風が吹くなどしてる。梅雨前線により雨の日が長く続くうちに、急に冷え込

天

梅雨寒ただよふまんばうてふいぎやう 倉木はじめ

と気がつきます。翻車魚は一トン半からニトンにも及ぶ巨大と気がつきます。「まんばう」という異形の魚に喩えたのか、なるほど翻車魚が漂っているのだと分かる。「てふ」は「ちょなるほど翻車魚が漂っているのだと分かる。「てふ」は「ちょー単語を構成するのかが分かりにくいので、ゆっくりと読ー単語を構成するのかが分かりにくいので、ゆっくりと読ー単語を構成するのかが分かりにくいので、ゆっくりと読ー単語を構成するのかが分かりにくいので、ゆっくりと読ー単語を構成するのかが分かりにくいので、ゆっくりと読ーを表が立んでいます。どこで「梅雨寒」漢字三つの後に平仮名が並んでいます。どこで

発想に脱帽いたします。にすれば、まさにこのようなものではないかという作者のの巨体の暗灰色は「梅雨寒」の色です。「梅雨寒」をカタチいるかと思えば、ぽかりと表層に浮いていたりもする。そな魚。胴体が途中で切れたような異形です。外洋の深海に

地

レシートにうさぎの単価梅雨寒し ふるてい

「梅雨寒し」は時候でありつつ、作者の心もちでもあります。物の「単価」が何やら寒々しいものとして映ったのでしょう。と記されているのを見ている目には、「うさぎ」という生きその「レシート」なのでしょう。普段、豚肉、鶏肉、牛肉ているわけですが、ペットショップで「うさぎ」を買った、「レシート」には買い物した品目、個数、値段が印字され

梅雨寒や鳩尾にいる何かいる

くま鶉

句です。 同です。 と書いて「みぞおち」と字面の効果も巧く使えている一尾」と書いて「みぞおち」と字面の効果も巧く使えている一にいるようでもあり、「鳩え方が滑稽なようでもあり。「鳩うが「鳩尾にいる何かいる」と畳みかける口調が、切羽詰まっ体調が悪い、胃が本調子ではない。そんな状態なのでしょ

マッチ擦る擦る臭ふ擦る折る梅雨寒 いかちゃん

冷たさもきちんと描けています。 4コマ漫画のような構成ですが、季語「梅雨寒」の湿気やもしてきて、よし、今度こそと力を入れると、折れてしまう。もしてきて、よし、今度こそと力を入れると、折れてしまう。で、擦る擦る」でなかなか火のつかないマッチ棒が見えて動詞を多用して、コマ送りの映像を作るのもテクニックの一動詞を多用して、コマ送りの映像を作るのもテクニックの一要は「マッチ」を擦っているだけなのですが、このように要は「マッチ」を擦っているだけなのですが、このように

テレビゲームに死んだ回数梅雨寒しあいだほ

え冷えと私たちを包んでいます。セント「死」を迎えるという事実。「梅雨寒」の時空は、冷われます。「死」という文字、「死」という概念、誰でも百パームに死んだ回数」と言葉にされると、寒々とした思いに囚た死んだ!」なんて声をあげますが、改めて「テレビゲー」をしている子たち、大人たちは「あ、ま「テレビゲーム」をしている子たち、大人たちは「あ、ま

あの群はきっと教員梅雨寒し でらっくま

自嘲も伝わってくるかのよう。
ぎ取ってしまうというか。「梅雨寒し」によって、かすかなて中学校の教員をしておりましたが、でらっくまさんも教と教員」に違いないと思うことがよくあります。私はかつと教員」に違いないと思うことがよくあります。私はかつなんで一目で分かってしまうのでしょう。「あの群はきっ

梅雨寒の週刊ジャンプ鈍器めく 玉庭マサアキ

という限定も効果的です。がぎっしり詰まっていることに対する印象か。「梅雨寒の」がぎっしり詰まっていることに対する印象か。「梅雨寒のの厚さをそう感じたのか、あるいは激しい絵やオノマトペか?と思いきや、「鈍器めく」という比喩に着地。漫画雑誌音数はほぼ5音しかありません。この後、一体何ができるの「梅雨寒」と「週刊ジャンプ」を取り合わせれば、残りの

梅雨寒のドンキ蛍光灯ぢぢぢ 月の道馨子

れが俳句の力です。 た光景が、読者の脳内でほぼ百パーセント再生される。こた光景が、読者の脳内でほぼ百パーセント再生される。この句も「梅雨寒のドンキ」と季節を限定しています。ど安の殿堂というキャッチフレーズで有名な安売り店ですが、安の殿堂というキャッチフレーズで有名な安売り店ですが、この句の「ドンキ」は、鈍器ではなくドンキホーテ。驚

砂肝の虚ろを洗ふ梅雨寒し トマト使いめりるりら

せます。 ですが、「虚ろ」は心理的なイメージを季語「梅雨寒し」のです。実際に砂肝を調理する手順を書いたといえばそのの一語を入れることで、映像だけでなく詩が確保できているの一語を入れることで、映像だけでなく詩が確保できている勝負です。「虚ろを洗ふ」という描写が巧いですね。「虚ろ」が野」と「梅雨寒し」の取り合わせ。こうなると中七

梅雨寒や暗渠の水の胃に響く

うとすると、このような句が手に入るのですね。のかもしれません。自分の感覚を正直に言葉に置き換えよ体で聞いている感じがします。音が振動として「胃に響く」体で聞いている感じがします。音が振動として「胃に響く」体で弱いている感じがします。いつもは音が聞こえない「暗渠」から、強い「水」の勢いも

第24回 2020年6月29日週掲載

那別な

捕らえる。 渓流などに見られ、矢のような速さで水に飛び込んで魚をほどの大きさ。腹部は赤褐色、背面は瑠璃色をしている。《夏》「かわせみ」。カワセミ科の鳥の総称。全長約17㎝で雀

天

かはせみの飛ぶとききゆつとちぢむ空どかてい

句も念のため脳内にて、様々な鳥の季語に置き換えてみま句として成立してしまうことが往々にしてあります。この鳥の季語を描く場合、似たような別の鳥に置き換えても

しないと、納得させられました。したが、いやいややはりこれは「かはせみ」以外では成立

ていた。 「かはせみ」の出現はいつも突然です。 そんなに遠くない 「かはせみ」の出現はいつも突然です。そんなに遠くない です。さらに、あの色。太陽によって色が変化する「構造 のです。さらに、あの色。太陽によって色が変化する「構造 のです。さらに、あの色。太陽によって色が変化する「構造 のです。さらに、あの色。太陽によって色が変化する「構造 を記述る色を確かめる。「かはせみ」の青は、一瞬「ききゆつ」と ないうものだそうですが、独特の青が視界に入ったとた 人、眼球も「きゆつ」と縮むかのようです。 表現した のです。そんなに遠くない になってもあります。一句の調べもまた、 と紹んだ「空」の残像のようでもあります。そんなに遠くない にはせみ」の出現はいつも突然です。

地

翡翠の鋭くみづに咲くやうな

高橋無垢

しい。「やうな」も、たおやかな余韻です。歴史的仮名遣いの平仮名「みづ」の文字もまた、実に瑞々くやうな」と描く。いかにも「翡翠」らしい美しさです。「翡翠」の動きを「鋭く」と書き、水面に残す波紋を「咲

かはせみの青はかはせみだけの青ゆすらご

だという断定そのものが、詩となりました。みの青」。この「青」は翡翠という種のみに与えられた「青」に与えました。太陽から授かる構造色という名の「かはせての世のものではないような色を、神様は「かはせみ」

ひとコマ前の翡翠も居て連写

ペトロア

カメラマンとしての実感があります。の「翡翠」を脳内に意識しながら「連写」し続ける眼球と指。とコマ」をイメージさせます。「ひとコマ前」の残像として全部足すと17音になる破調。1音1音が、コンマ何秒の「ひ

四万十の翡翠糸魚川の翡翠

ひでやん

てしまう、その手腕を誉めましょう。どちらの「翡翠」も美しい。ご当地ソングを見事な詩にしとは、巧いことを思い付いたものだと。どちらの川も豊かで、配して、かたや「かわせみ」、かたや「ひすい」と読ませる高知の「四万十」川、新潟の「糸魚川」、二つの川の名を

万歩十五日目の翡翠よ

ぐわ

況をありありと描いているのが手練れの技だなあ。ニュアンスも含め、「一万歩十五日目」という数詞だけで状この池に「翡翠」がいるらしいと聞いてはいるが……というかもしれませんが、その「十五日目」に出会った「翡翠」。毎日「一万歩」歩くようになったのは自粛生活のおかげ

かはせみの影みずいろに瞼撫づ

とりこ

識として、一句を味わわせてもらいました。として、下五「瞼撫づ」を含めたその余白は残像を追う意の残像を探します。「かはせみの影みずいろに」までは光景あ! 今のは「かはせみ」?! と思う瞬間、私たちは網膜

かはせみのいつも来る樹を伐るなんて めぐみの樹

のまま一句に。と「かはせみ」を眺めていたことも分かります。呟きがそと「かはせみ」を眺めていたことも分かります。呟きがそも来る」ことを知っている人物は、いつもここで、この「樹」てしまったとは!という非難なのか。「かはせみ」が「いつこれから伐る予定であることを知ったのか。なんと伐っ

かはせみのふれぬみづたそかれのみづ 古田秀

がゆっくりと動いていく効果もあります。「ふれぬ」が「触りと追いつつ、脳内で意味が完成していきます。一句の時間平仮名書きの句は、その表記の特性上、一字一字をゆっく

なかった静かな「みづ」の美しい陰影があるばかりです。景が完成されていくのです。そこには「かはせみ」が触れという時間帯であることが分かっていくと、ゆっくりと光れぬ」であり、「みづ」が「水」であり、「たそかれ」が「黄昏」

青年期終はる かはせみは形見 RUSTY

ぶ速さで読者の心をよぎります。で象徴化される。「青年期」の光と影が、「かはせみ」の飛いの中で「青年期終はる」という感慨を手にする時期はいかの中で「青年期終はる」という感慨を手にする時期はいかの中で「青年期終はる」という感慨を手にする時期は心象風景として「かはせみ」が置かれています。「青年期」の衆風景として「かはせみ」が置かれています。「青年期」の歌風景として「かはせみ」が置かれています。「青年期」の歌風景として「かはせみ」が置かれています。「青年期」の歌風景として「かはせみ」が置かれています。

翡翠もキング牧師の目も綺麗 ウェンズデー正人

「翡翠」という存在があまりにも鮮やかなものだから、取り合わせの句にするのはとても難しいことが、今回改めて分かりました。その中で、ハッとしたのがこの一句です。「翡翠」=「綺麗」とイメージし、他の「綺麗」なものを探す。これが基本的な取り合わせの考え方ですが、まさか「キング牧師の目」がくるとは思いませんでした。「 Have a Dream(私には夢がある)」は「キング牧師」の有名な演説の一節。「キング牧師の目」が見据えていた「 Dream」は、「翡翠」という存在があまりにも鮮やかなものだから、取の「天」に推したいほどの感銘を受けた作品です。

プール

第4回 2020年7月13日週掲載

増えたが、思い切り夏を楽しむ風景が拡がるのは屋外のも水泳所などといった。今では年中利用できる屋内プールも《夏》かつては河川を利用した天然プールも多く、水泳場、

天

志望校下げてプールに浮いている あいだほ

思います。
思います。
思います。
思います。
とは泳ぐための水の器。その違いを推したいと
夏らしさをどう確保するのかも悩みどころです。今回は迷
が必要です。さらに「プール」自体は年中あるわけですから、
「プール」とは泳ぐための水の器。その違いを表現する工夫しました。季語「泳ぎ」は、泳ぐという行為が中心ですが、

クが、「プール」を季語として描く。そんな作品でした。 で突っ込んでしまう。)映画のワンシーンのようなカメラワー で突っ込んでしまう。)映画のワンシーンのようなカメラワー とまうが、いやいや、いくらなんでもそれはないまと、そ しまうが、いやいや、いくらなんでもそれはないまと、そ しまうが、いやいや、いくらなんでもそれはない喪失感。(ま うが、「プールに浮いている」のは別な意味? と一瞬疑って と一瞬疑って と一時疑って と一時疑って

地

プールやさし十字架のかたちに浮けば RUSTY

やさし」から始まる展開が巧いです。さらに「十字架のか「プール」に浮いている句は沢山ありましたが、「プール

地。これも「天」に推したかった一句です。みたいな、大人の愛と哀しみを描いた映画のような読み心マフィアとかが出てくるような……『ゴッド・ファーザー』ンのようですが、「志望校」の句のような青春映画ではなく、たち」という比喩そのものが詩。こちらも映画のワンシーたち」という比喩そのものが詩。こちらも映画のワンシー

唇を読んでプールの端と端

京野さち

けるほどの内容がありそう。の表情もどんどん変わってきて、この句にも短編映画が描よって、映像や意味が変わってくのも面白いと思います。「唇」は、恋人同士か、親と子か、上司と部下か等、人物にという面積?のイメージで表現した発想がいいです。このという面積?のイメージで表現した発想がいいです。この

水面打つ雨を底より見るプール

たちに、その「雨」を追体験させるだけの説得力があります。という状況に、独自性があります。そして、読者である私使いつつ、「水面を打つ雨」を「プール」の「底」から見るなどの語が多用されていました。が、それらの言葉を全部などの語が多用されていました。が、それらの言葉を全部今回寄せられた「プール」の句では、「水面」「底」「雨」

プールの底こぉんこぉん機械音 仁和田 永

水の体積を、こんな音で表現することもできるのだな。水底でその音に意識を集めているのです。「プール」という「プール」の水を濾過する「機械音」に違いないと思いつつ、「こおんこおん」と音が響いているような気がする。あれは「プールの底」に潜ると、なんだか分からないんだけど

れーんいくつもいくつもくぐりてプールに抱き合ふ

き合ふ」?一瞬、恋人同士の「抱き合ふ」かと思ってしまう「れーん」を「いくつ」もくぐって「プール」の中で「抱

みを楽しませてもらいました。りましょう。俳句としてはちょっと長過ぎるけど、その企合う姿だと分かる。この展開が作者の企みというヤツであのですが、次の瞬間に、競泳のレース後、選手同士が讃え

シフト明けの帰路プールから嬌声 戸部紅屑

その思いが、疲労感をさらに重くするのです。の嬌声」。働き続ける自分とは関係のない夏が、そこにあるな印象を持ちます。そこに聞こえてくるのが「プールから「シフト明けの帰路」だけで、疲れの身体を引きずるよう

以下の同時投句の発想に、笑ってしまいました。

【急募】プール監視(人・河童不問) 戸部紅屑

排水溝プールの水のだらしなく 南方日午

らしなく」の一語が、それを実現しました。の倦怠というか、密かに腐っていく水の匂いというか。「だをこう表現した点に、別な意味の夏らしさを感じます。夏を用いて、夏の季語らしさを描こうとした句は沢山ありまでプール」の水の青さ、爽快さ、明るさ、楽しげな声など

相撲部のぎつしりとゐるプールかな めぐみの樹

できるということだよな。ていい。季語「プール」の夏らしさは、暑苦しさでも表現る「相撲部」が「ぎっしりとゐる」というのが、暑苦しくる「相撲部」が「ぎっしりとゐる」というのが、暑苦しくいい。季語「プール」の夏らしさは、野球部でもサッカー(笑)。練習終わった後の部活ならば、野球部でもサッカーとれも笑ってしまったよ。よりによって「相撲部」か、と

ひらパーのプールにちゃらいナンパかな にゃん

最初、何をいってるんだ、にゃん?と瞬殺しようとし

れば反対はできないな(笑)。「プール」の「ちゃらいナンパ」も、夏の風物詩だと言われたとたん、「ちゃらいナンパ」がありありと見えてきたよ。たのだが、「ひらパー」が大阪の枚方パークだと思い当たったのだが、

第45回 2020年7月27日週掲載

土中で過ごした後、地上に出て羽化し成虫となる。にいるのは32種といわれる。およそ5年前後を幼虫として《夏》半翅目セミ科の総称。世界には約2千種がおり、日本

天

手の届く高さの蝉は要らぬ蝉

まいました。

まいました。

まいました。

おいました。

おいました。

おいました。

おいました。

おいました。

おいまでも関するマーフィーの法則みたいな一句だと笑ってしたなってくるのが(子ども大人にかかわらず)人間の心に対がの呼また蝉。これなら子どもでもカンタンにとれるに違いの蝉また蝉。これなら子どもでもカンタンにとれるに違いいがあがるのです。公園の大木は、蝉の木といってもいいぐらいあげるのです。公園の大木は、蝉の木といってもいいぐらいまげるのです。公園の大木は、蝉の木といってもいいぐらいまげるのです。公園の大木は、蝉の木といってもいいぐらいまげるのです。公園の大木は、蝉の木といったんだけど、同で単はかりが、まっというでは、単取りにでも連れてってやろうをしたことのある人ならば、苦笑いしつつ共有できる経験。をしたことのでは、までは、単の木といった。

想もあったな、と。う兼題へのアプローチとして、こんな法則をもってくる発のの傍題や蝉の細かな種類ではなく、単純な「蝉」とい

蝉の眼ころつと外れてしまひさう

ざうこ

ろつと」が、「蝉」ならではの質感を表現しています。を評価します。ただの「外れてしまひさう」ではなく「こが正直な感想のようでいて、ちゃんと描写になっている点「蝉の眼」に着目した句も沢山あったのですが、中七下五

みるからに食えない蝉の鳴きにけり ぐずみ

やかましく鳴く「蝉」なんだろうな。

さくて油断できない」という意味もあります。「蝉」を食る人で油断できない」という意味もあります。「蝉」を食る人で油断できない」という意味もあります。「蝉」を食る人で油断できない」という意味もあります。「蝉」を食る人では「煮ても焼いてもくえない意。ずるがして食えない」には「煮ても焼いてもくえない意。ずるがして食えない」という意味もあります。「蝉」を食いましく鳴く「蝉」なんだろうな。

人焼肉終えて蝉鳴く上野へと

安溶

斎乃雪

緑青の蛇口のごとく蝉凝る

トポル

は腹を向けた死骸でありましょう。全てを比喩にしてしまう。その手口が大胆です。「蝉凝る」の噴いた「蛇口」を脳内に出現させておいて、「ごとく」でを観ることがあります。前半の措辞で、水飲み場の「緑青」の腹の辺りでしょうか。確かに「緑青」のような色「蝉」の腹の辺りでしょうか。確かに「緑青」のような色

ケェケェと猫蝉の死を喰ふや吐く ウェンズデー正人

グマトペの力でしょう。 見えてくるのは、上五「ケェケェと」という独自性のあるオ特に「や」の使い方が巧い。猫の行動のみならず表情まで「喰ふや吐く」としたところに、強いリアリティがあります。りましたが、「ケェケェ」という擬音語から始まり、最後をりましたが、「ゲェケェ」という発想の句も沢山あ猫や蟻が「蝉」の骸を「喰ふ」という発想の句も沢山あ

蝉鳴くや記憶の家の黒かりき

ぐ

行きのある作品。これも「天」に推したかった一句です。行きのある作品。これも「天」に推したかった一句です。毎年「蝉鳴く」頃になると、なぜかあの「家れど、気になっていたお屋敷かもしれません。「記憶の家という詩語は「黒かりき」という過去の印象としてのみ残っという詩語は「黒かりき」という過去の印象としてのみ残っという詩語は「黒かりき」という過去の印象としてのみ残った、誰が住んでいるのかも分からないのだけの家」は、今は無くなった生家かもしれません。「記憶存在で勝負しようという意志が読み取れる作品です。「記憶存在で勝負しようという意志が読み取れる作品です。「記憶存在で勝負しようというとき物のという時間がある作品。これも「天」に推したかった一句です。

下積みがどうとか野暮だなあ蝉よ

司啓

14

暮だなあ蝉よ」と語りかける口調に共感するのだよなあ。話を自慢げに語るのに、つきあいのはウンザリだよな。「野も尻こそばゆい。ましてや、他人が己の「下積み」の頃の他人から「ご苦労されたんですってね」なんて言われるの「下積み」の時代があったと自分で語るのも「野暮」だし、

蝉鳴くや俘虜より伝ふドイツパン sakura a.

芸術指導などを行ったほか、ドイツ兵捕虜が設計し、地元がります。「畜産や製パンなどの産業指導、スポーツ指導や九」交響曲がアジアで初めて全曲演奏されました」との解東俘虜収容所でドイツ兵捕虜によって、ベートーヴェン「第東俘虜収容所でドイツ兵捕虜によって、ベートーヴェン「第億島にあった捕虜の収容所を思い出しました。某ホーム

れぞれの距離が、まさに付かず離れずの一句です。と思いますが、「蝉」「俘虜」「ドイツパン」三つの言葉のそ流が鳴門市では行われました。」 こんな逸話からの発想だするため、橋を建設するなど戦時中とは思えないような交の大工とともに牧舎を建設したり、地元民の生活を便利に

筋肉を締めてにいにい蝉の止む としなり

印象。共感の一句です。

こちらは、蝉の種類を限定した一句。「筋肉を締めて」というの象。共感の一句です。
いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想かと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想がと読いう措辞は「にいにい蝉」独特の鳴き方からの発想がと読いる。共感の一句です。

みんみんや忽ち癒えるみづの疵 RUSTY

きますね。高原の湖の「みづの疵」のなんと美しいさざめき。が。「みんみんや」という上五が呼応していることも理解でか。「みんみんや」という詩語が涼やかに広がってきません本的には涼しい環境を好む蝉です。それが分かると、「忽ち能ですが、アブラゼミと違ってミンミンゼミは森林性。基うな大きさの「油蝉」を上五に置くことも、音数的には可っな大きさの「油蝉」を上五に置くことも、音数的には可っな大きさの「油蝉」を上五に置くことも、音数的には可った方がある。高原の湖の「みづの疵」のなんと美しいさざめき。

御用邸に守衛熊蝉ほかふたり(きゅうもん@木ノ芽

第46回 2020年8月24日週掲載

藤袴 なじばかま

形が筒状で袴をはいたようなのでこの名がある。生するほか、庭園などでも栽培される。花は藤色で、弁の《秋》キク科の多年草。人の背丈ほどに伸び、河原などに自

天

千年はゆたかでわづか藤袴 まんぷく

も否めません。が、ややもすると、連想が同じあたりに集まってくることが、ややもすると、連想が同じあたりに集まってくること袴」。それも一つの発想法ですから悪いことではないのです源氏物語へと連想を繋いだ人も多かった今週の兼題「藤

ことです。

「大の句が見事だったのは、連想から「千年」というキーのの句が見事だったのは、連想から「千年」との句が見事だったのは、連想から「千年」というキーのの句が見事だったのは、連想から「千年」というキー

下五「藤袴」は豊かに咲き、僅かな時間を彩るのです。んと「わづか」な時間だろう。この悠々たる感慨を受けて、「千年」とはなんと「ゆたか」な年月だろう。そして、な

ささやかな出来事に過ぎないのでしょう。動も広がっています。これらの動きもまた、「千年」の中の滅寸前となりましたが、今は各地でフジバカマを植える活っジバカマという種は、秋の七草でありながら、一時は絶

地

折り取れば藤袴しろく発火する いしはまらんる

が終止形)、上五「折り取れば」も口語だと判断してよいで下五「発火する」が口語ですから(文語では「発火す」

意味もあります。も、「折り取るときはいつも」「折り取ってみて気づいた」のも、「折り取るときはいつも」「折り取ってみて気づいた」のしょう。「折り取ったとしたら」と仮定の意味が読む以外に

しょう。 は、中七「しろく」の一語がうまく働いてくれているからでのどれを当てはめても、それぞれの味わいが読み取れるのなキーワードを見つけたのですね。前述の「~ば」の解釈「藤袴」の独特の花のかたちから、「発火」という印象的

指切は慎みなくて藤袴

るような気がします。静かに強い。一句の背後に、源氏物語の世界も匂い立ってく静かに強い。一句の背後に、源氏物語の世界も匂い立ってくみなくて」といいつつ季語「藤袴」に尽くす思いは、切なくて、ですが、この句の「指切」は大人のそれに違いありません。「指切」という言葉は得てして子どもの場面を思いがち

藤袴奥は清水の湧き出ずるあつむら恵女

ん。 ないで生まるアサギマダラの水場でもあるのかもしれませいです。その水は「藤袴」を育てる水でもあり、「藤袴」を袴」の群れ咲く「奥」には「清水」の湧き出る場所があるを語「藤袴」に、水の存在を感じる人たちもいました。「藤

れぞれの季語の強弱もしっかり表現できています。「清水」は夏の季語ですが、この句の主役は「藤袴」。そ

みづはみづ洗ひて淋しふぢばかま RUSTY

余談ではありますが、RUSTYさんは、先だってちばかま」をさりげなく繋ぐあたりの配慮もさすがです。情語が、「みづはみづを洗ひて」という美しい詩語と季語「ふを醸し出します。中七の最後に配される「淋し」という感を醸し出します。中七の最後に配される「淋し」という感でみづ」が「みづ」を洗うという表現がなんとも美しい一句

ラリー賞を獲得した、桃の句の作者です。 YouTube で配信しました「あいうえお句会ライブ」にてギャ

すれちがふ人濡れてゐる藤袴

ぐ

作品です。 「藤袴」にも静かな湿度がおよんでくるような気配を感じるいです。山頂のほうは雨だったのか、深い霧に濡れたのか。 山野を歩いていると、時折「人」と出会います。気がつい 山野を歩いていると、時折「人」と出会います。気がつい 水→濡れる」と連想を一つ進めています。「藤袴」を探して 水を語「藤袴」の奥に水の印象を感じ取る人たちも多かっ

モンゴルは秋のある國ふぢばかま ずしょ

さが入り交じります。の野に「ふぢばかま」を見つけたような、嬉しさとさびしいる。そのあたりの印象が豊かに広がります。「モンゴル」とうな爽快感を受け止めつつ、「秋」の美しさや切なさも感か。行ったこともない「モンゴル」の平原に立っているかのか。行ったこともない「モンゴル」の平原に立っているかの「モンゴルは秋のある國」という措辞が、広々として爽や

役として「モンゴル」の風のなかに咲いています。(いうまでもなく「秋」は季語ですが、「ふぢばかま」が主

木簡に破斯の名ぞあり藤袴

脩平

「破斯」とは、破斯清道。平城宮跡から発見された「木簡」「破斯」とは、破斯清道。平城宮跡から発見された「木簡」「破斯」「藤袴」三つの言葉が、良記憶しております。「木簡に破斯の名」の部分は単なる事実記をしております。「木簡に破斯の名」の部分は単なる事実にの名があり、ペルシャ人ではないかという説があったといるがあり、ペルシャ人ではないかという説があったといるがあります。

藤袴なみだ袋の甘からん

トポル

い。手練れの技というべき一句。
一句の底に滲ませつつ、センチメンタルに落としてしまわな秋の七草・絶滅危惧種・アサギマダラ・源氏物語など)を語「藤袴」がもっているさまざまなキーワード(甘い香り・語「藤袴」がもっているさまざまなキーワード(甘い香り・季「涙袋」が甘いに違いないと連想を一歩進めたのが勝因。季う回、「甘い」というキーワードを使った句も多かったの今回、「甘い」というベモーロードを使った句も多かったの

屠らるる鳥の色なる藤袴

仁和田 永

惹かれたのだろうと思います。暗紅色の印象が強く残っているものですから、この比喩にこの句の評価の分かれ目。私は、「藤袴」の茎の色に交じる高鳥の色」という比喩にリアリティを受け止めるか否かが、腐心した人たちも多かったのではないでしょうか。「屠らる「藤袴」の花の色をなんと表現したらよいのか。そこに「藤袴」の花の色をなんと表現したらよいのか。そこに

痛む弔花のようにも思えてきます。 このような比喩で描かれる「藤袴」は、残酷な鳥の死を

藤袴殖えゆく吾の死後の庭

比々き

も侮れない力をもっていたのですね。内蔵しているのは、桜ぐらいかと思っていたのですが、「藤袴」いることです。 植物の季語で、 歴史にかかわる長い時間を地味な咲きようにもかかわらず、 非常に深い世界をもってとこまで見てきて改めて思うのは、 「藤袴」という季語は

袴」なのだと思います。 うでもあります。この曖昧な感情を表現し得るのが、季語「藤に違いない。 その思いは、淋しいようでいて慰められるよたちは皆枯れ果て、きっとこの「藤袴」だけが殖えていく「吾の死後の庭」を思う時、慈しんで育てたさまざまな花

ラが集まってくるかもしれません。ゆらゆらと翻るそのさ「吾の死後の庭」に殖えてゆく「藤袴」には、アサギマダ

まは、弔の歌のようでもあります。

第47回 2020年9月7日週掲載

野の 分^{わき}

《秋》秋の野を分けて吹く強風のこと。9月頃の暴風や台風、

天

野分立つひねもす水の鱗立つ トマト使いめりるりら

を匂わせます。ますが、「野分」は一種の美意識をともなって非日常の世界とは、「野分」は一種の美意識をともなって非日常の世界と風と同じですが、降雨や高浪ではなく風に軸足があります。風と同じですが、降雨や高浪ではなく風に軸足があります。「野分」は野を分けるように吹く強い風。現象としては台

さをもって「野分」を表現し得た作品です。と言葉を重ねつつ、実にシンプルな美し分立つ」「鱗立つ」と言葉を重ねつつ、実にシンプルな美しそれを「ひねもす」一日中うっとりと眺めているのです。「野す。見飽きることのない風のかたちと水のかたち。作者は抜けます。野の風をうけた水面は鱗のように逆立っていまのです。草木が生き物のように猛ります。風は湖へと吹き草木を揺らしに揺らす強い風が、野を吹き起こしている草木を揺らしに揺らす強い風が、野を吹き起こしている

地

野分来で楠がゆれれば楠のにほひ中岡秀次

のにほひ」を放ちます。季語「野分」の美意識に寄り添ういけれど、高貴な印象の香りです。「楠」は、揺れる度に「楠のです。「楠」に近づくと、芳しい香りがします。強くはな「野分」がやってきて、大きな「楠」が揺れに揺れている

ように、「楠」は香り続けるのです。

日光の杉哭く夜の野分かな

アーナンダ

狙った通りの効果。下五「かな」の詠嘆もいきています。 深い杉山を吹きわたる「野分」です。「哭く」の一語が大き 下五まで読めば地名の「日光」だと分かります。「日光」の く揺らぐ杉の様子を表現。「日光」と「夜」の視覚的対比も こちらは「杉」です。太陽の「日光」かと一瞬思うのですが

もみくちやに野分を竹取の翁 ウェンズデー正人

をなぞるに終わっていたかの印象です。 展開した句も多かったのですが、清少納言や紫式部の文言 季語「野分」のイメージを、枕草子や源氏物語の世界に

とができるのです。 写しました。俳句はたった十七音ですが、このようにたっ た5音を工夫するだけで、新しいリアリティを獲得するこ の中を帰っていく様子を「もみくちやに」という上五が活 この一句は、竹取物語へとワープ。「竹取の翁」が「野分」

たくましき根をはる蝋燭野分の夜 豊田すばる

思わせておいて、それが「蝋燭」の蝋が燭台に溜まってい 者の意図も理解できます。「たくましき根をはる」で大木を ね。読み終わった静けさの中に、風の音も聞こえてくる一句 る様子であり、「野分の夜」であると展開したかったのです 中八が実に勿体ないのですが、この語順にしたかった作

コンビニいまひかりの函に夕野分 R U S T Y

があります。季語は「夜の秋」だったかと。その類想があ ることを踏まえた上で、この「コンビニいまひかりの函に」 は、コンビニが水槽のようだという句を特選に推した記憶 去年だったか一昨年だったかのNHK全国俳句大会で、私

> た作品です。 「夕野分」を映像としてしっかりと見せる。俳句は、工夫次 さに夕暮れの時間をむかえ、という時間描写となり、季語 は実に巧いと感心します。「いま」「に」の二単語が、今ま 第でどんどん新しくなれるのだということを教えてもらっ

野分まだ匂ふ木切れを集めけり

く

戻してくるあたり、実に巧いと思います。 ころですが、「集めけり」と実際に拾う感触を添えて日常に る。このあたりの判断が見事です。下五の着地も難しいと もしれません。心理的嗅覚という感じでしょうか。枕草子 を下敷きにした上で、「木切れ」だけをピックアップしてく ど吹き折られたるが」と続く段です。「野分まだ匂ふ」は、 いみじうあはれにをかしけれ。立蔀、透垣などの乱れたるに 実際の嗅覚というよりは野分の去った手触りに近いものか 前栽どもいと心苦しげなり。大きなる木どもも倒れ、枝な 枕草子からの連想かと読みました。「野分のまたの日こそ

神木を贄に野分の被害の

界を自在に遊べる作者の言語感覚を愛します。 うのは勿体ないですね。その曖昧な境界にも句材があるこ にいきなり「被害0」と俗をぶつけてくる。この曖昧な境 を生け贄にするとは一体?と思わせ、「野分」の美意識の中 とを、先の「木切れ」の句は示唆していますが、この句の「神 木」に対する「被害0」という展開もまさにそれです。「神木 「野分」は雅、「台風」は俗、とクッキリ線を引いてしま

野分去る清らなる日と水漬く地と 虚実子

水だとか被害だとかという言葉とは違うニュアンスが、季たる、という意味です。万葉集にも用例がありますが、洪 が広がっているのです。「水漬く」とは水につかる、水にひ 生を思わせるまっさらな太陽がのぼり、眼下には「水漬く地 「野分」が去った翌日。空には、「清らなる日」つまり再

> 語 「野分」と響き合います。

新章の始まりめいて野分後

浄化された「野分後」の野が、まっさらなーページのよう 喩はややもすると説明臭く感じられますが、この句は、季 ていくかのような印象があります。その気分を「新章の始 にはそのイメージが薄く、風の襲来によって野が美しくなっ に広がっていきます。 語とそれ以外のフレーズの言葉の質量が釣り合っています。 まりめいて」と表現したのでしょう。「~めいて」という比 季語「台風」は禍々しい被害をも連想させますが、「野分」

第48回 2020年9月21日週掲載

唐辛子

名で呼ばれる。 も含め、大きさや色などは多種にわたり、それぞれ様々な 持ち帰り、欧州から東洋へと広まった。野菜用のピーマン 《秋》熱帯アメリカ原産。ナス科。コロンブスがスペインに

百鬼退散たうがらしを沢山

あまぶー

悪さをする妖怪たちを「退散」させるために「たうがらし 【17日音になる破調です。「百鬼」とは色々な妖怪。「百鬼夜て17音になる破調です。「百鬼」とは色々な妖怪。「百鬼夜で17年で19年で18年で18年で19年で19年で19年で19年で19年で19年で19年 し沢山」は唐辛子をたっぷり使った料理を思いました。な や玄関先に吊されていたりしますが、この句の「たうがら 国の民間信仰では、魔除け厄除けの力があるとされ、軒先 沢山」言い切る後半の措辞に、勢いがあって愉快です。中 行 (= 悪人どもが時を得て、勝手に振る舞うこと。多くの 人が怪しい醜い行為をすること)」 なんて言葉もありますが

の一面をストレートに捉えての一句です。させようではないかと読んでもいい。「たうがらし」の本意辛子を植え、沢山収穫し、沢山軒先に飾って「百鬼退散」の論、料理と限定する必要はありません。庭に沢山の唐

地

ぷきりぷきりとうがらしはがらんどう

るオノマトペです。
ると、中は「がらんどう」。折る時の手触りがリアルに伝わると、中は「がらんどう」。折る時の手触りがリアルに伝わききった唐辛子の音でしょう。「ぷきりぷきり」と折ってみこちらは6音と11音の破調。「ぷきりぷきり」はかなり乾

もうもうと湯気の屈強鷹の爪

中山月波

ぽど腹減ってるのかな、わたしゃ。また中華料理の厨房を思ってしまったのですが、なんかよっの赤が見えてくる構成もいいです。「湯気の屈強」で、また一語が巧いなあ。「もうもうと湯気の屈強」から「鷹の爪」の一句。上五中七の措辞、特に「屈強」の傍題「鷹の爪」の一句。上五中七の措辞、特に「屈強」の

触れたれば噛みつくだらう唐辛子

<"

れたらば」になります。という点です。もし仮定の意味を述べたかったのならば、「触は、作者の表現したかったのは「触れたれば」でいいのかは、作者の表現したかったのは「触れたれば」でいいのからも猛々しく曲がっているのかもしれません。少し迷ったのうも猛々しく曲がっているのかもしれません。少し迷ったのちょっと触ると「噛みつく」かのように「唐辛子」です。ちょっと触ると「噛みつく」かのように「唐辛子」です。

毎日を正しく怒れ唐辛子

うしうし

辛子」の存在が凜々しくなりそうです。
は、自分自身に向かっての内省とも読めます。そう読むと「唐との命令形は、他人に向かって発せられたものというよりての「毎日を正しく怒れ」というフレーズが「唐辛子」のです。 さらに、のの「毎日を正しく怒れ」というフレーズが「唐辛子」ののです。 さらに、の、毎日を正しく怒れ」というフレーズが「唐辛子」のの存在が凜々しくなりそうです。

唐辛子堪忍袋は小さいの

リリと辛いのでしょうね。 キュっと囓るとピ辛子」も小さく尖っているのでしょうね。ちょっと囓るとピの堪忍袋小さいんですもの、なーんて可愛い言い訳です。「唐す。なんでそんなに君はカリカリ怒るんだッ! だって私す。なんでそんなに君はカリカリ怒るんだッ! だって私同じ怒り系の発想ですが、「堪忍袋は小さいの」が愉快で同じ怒り系の発想ですが、「堪忍袋は小さいの」が愉快で

子育ては辛い唐辛子は辛い

とりこ

よね、と作者は心の中で納得もしているのでしょう。もカライこと限りないが、それぞれに別の喜びのあるのだの発想。「子育て」は実にシンドイことばかりだ。「唐辛子」「辛い」と「辛い」は同じ字を書くのだという気づきから

子育ては失敗唐辛子いっぱい テツコ@第二まる安

Fundube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風YouTube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「俳句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「明句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)「明句人生相談」風でuTube(夏井いつき俳句チャンネル)

純情なやつって強い唐辛子

のつり

せ私は「唐辛子」だし……という自嘲も混じっているのかも。と苛ついている感じ。ふん、純情なやつって強いよね、どうきは、単純な賛美ではなく、「純情なやつ」の鈍感力にちょっ葉には違いないのですが、「純情なやつって強い」という呟葉には違いないのですが、「純情なやつって強い」という呟くが、「純情」の一語は、「純真で邪心のない心。また、その心をもっ

仕送りなくて唐辛子と居る栄光荘二号 利尻

シュリ

荘にカンパイ! 俳句としては長すぎますが、自由律俳句というジャンル俳句としては長すぎますが、自由律俳句というジャンルの勝利。栄光を作りも見えてきて、なんというネーミングの勝利。栄光化は、自分自身を戯画化する仕掛け。「栄光荘二号」の擬人とは、自分自身を戯画化する仕掛け。「代送りなくて」食べらもありますから、許容しましょう。「仕送りなくて」食べらまでが、自由律俳句というジャンル俳句としては長すぎますが、自由律俳句というジャンル

鼻穴に合ひさうではある唐辛子

栄光荘の二号室にいる人物が、こんなことしてそうで、 さるぼぼ®チーム天地夢遥

と思い直した次第です。と思い直した次第です。なけれますし、「~ではある」によって、そんな馬鹿なことの穴に合ひさう」というサイズ感は、ちゃんと映像喚起しツボに入ってしまいました。が、よくよく読んでみると「鼻ツボに入ってしまいました。が、よくよく読んでみると「鼻がする」というは、これなことしてそうで

秋 晴

第 249 回

2020年10月5日週掲載

風が来たり雨が続いたりでなかなか晴れないこともあるが、《秋》秋の空が澄んで晴れわたること。初秋から仲秋には台

天

秋晴や牛乳箱の青きれいあ

あつちやん

配達してもらう牛乳の受け箱だと読みました。取り合わせるのは小さな勇気がいります。「牛乳箱」は、朝「秋晴」は言うまでもなく青いのだから、敢えて「青」を

感覚を忘れないでいたいと強く思った一句です。「きれい」だという。これこそが俳人の素直な心根。こんない、そして真っ白な牛乳を飲み干す。なんと健康的な「秋晴」を喜び、「牛乳箱の青」を素直に「きれい」だと誉め、そして真っ白な牛乳を飲み干す。なんと健康的な「秋晴」の日でしょう。なんの企みもなく、「きれい」だと誉め、そして真っ白な牛乳を飲み干す。なんと健康的な「秋晴」の日でしょう。なんの企みもなく、「きれい」だと営いました。いかにも秋らしい晴天のなん「秋晴」の朝を思いました。いかにも秋らしい晴天のなん「秋晴」の朝を思いました。いかにも秋らしい晴天のなん

地

ポケットのなかは秋晴れドラえもん。まこちふる

楽しくなってきます。ん」の「ポケット」の中はいつも「秋晴れ」に違いないと、あの丸いからだの青が否応なく思いだされます。「ドラえもと、トの中は秋晴れ」からいきなり「ドラえもん」がでてくると、こちらは青と書かずに青色を取り合わせる手法。「ポケッこちらは青と書かずに青色を取り合わせる手法。「ポケッ

継ぎ目無くこれは文句無く秋晴

あずお

い「秋晴」が見えてくる。作者の企みが嫌みなく成功しまが出現することで、なるほどと腑に落ちる。確かに雲一つないるのか全く分からないわけですが、最後の季語「秋晴」「継ぎ目無くこれは文句無く」までは、何について述べて

秋晴は晴れの三乗プラス僕

すぴか

まいました。「秋晴」に対してさらに「晴れ」と重ねて、一体どう着地「秋晴」に対してさらに「晴れ」を「二乗」したぐらい晴するつもりだ?と思うと、「晴れの三乗プラス僕」なんていするで、「休晴」に対してさらに「晴れ」と重ねて、一体どう着地

鼻唄が届かん。深いわ秋晴

稗田鈴二郎

私たちは知ってますが、「鼻唄が届かん」という一種の比喩を節の特性として、秋の天が高いことも空が深いことも、

「深いわ」は心の呟きか。秋の淋しさも匂わせます。 途中の句点は、作者の呟きを表現する企みどおりの効果。 によって「秋晴」の空の深さを表現した発想に惹かれます。

|晴ね| |同時投句は、カギカッコ付きの作品「宇宙人歓迎、的な

これまたツボにハマってしまいました。

今日から無職秋晴に目をひらく 古田秀

もまた心を寄せるのです。見開いた「目」には不安の影もよぎる。その心情に、読者目をひらく」という動作。サバサバしているようでいて、だと判断できます。「今日から無職」という事実。「秋晴に韻律がだらだらしてますが、これも内容に見合ったもの

秋晴ゆうてもふられんのはいやや 司啓

心情を、「秋晴」は懐深く受け止めてくれます。はり「ふられんのはいやや」と思う。正直につぶやかれた上にある。こんな気持ちいい「秋晴」ではあるけど、やっ嬉しくても悲しくても情けなくても「秋晴」は私たちの頭へ 、
「秋晴」は、作者の内面のさまざまな呟きを受け止めてく

ひとが死ぬときの秋晴なのかもないかちゃん

のです。
のです。
そして、自分が死ぬ時の「秋晴」がふと思われたりもするの心をよぎるのです。今、この瞬間も誰かが死んでいる。て「ひとが死ぬときの秋晴なのかもな」という思いが作者こんなに美しい「秋晴」って見たことなかったな。これっ

はじめての呼吸はこんな秋晴れがいい さとけん

めての呼吸」かもしれません。シンプルでいて、案外深い句。すると、自分が自分らしく生きられるようになった「はじ秋晴れがいい」と率直に思っているのです。少し深読みを産声だと読みました。生を受けて初めての呼吸は「こんな「はじめての呼吸」は、赤ちゃんが生まれて最初にあげる

秋晴やロケ弁ひらく足軽班

はまゆう

では、<l>では、<l>では、<l>では、<l>では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、<u

秋晴や今東京に居ます先生かむろ坂喜奈子

物語を想起させます。短編小説が何編か書けそうな作品で物語を想起させます。短編小説が何編か書けそうな作品でに向かって歩いているのか、今も挫折を繰り返しているか、惑をかけた「先生」かもしれません。「秋晴」の空の下、志惑をかけた「先生」かもしれません。「秋晴」の空の下、志の「先生」とは誰でしょう。励ましてくださった、背

第50回 2020年11月2日週掲載

実験がらさき

実を付ける。その紫色の美しさから「紫式部」とも呼ばれる。1.5~3メートルほど。10~11月頃、たくさんの丸い紫色の《秋》 クマツヅラ科の落葉低木。山野に自生し、高さは

天

実むらさき千年つづく鈴祓ひ 龍田山門

心身を清浄にするといわれています。て行われるお祓い。清らかな鈴の音が、人々の穢れを祓い、祓ひ」とは、神社における祈祷の際、祝詞の後に鈴を使っおが生きた平安時代は千年前。その「千年」というキーワー氏物語』の作者紫式部を思わないではいられません。紫式氏物語』の作者紫式部を思わないではいられません。紫式「実むらさき」は「紫式部」の傍題。その名前から、『源

さき」が美しい実をつけているはずです。つづく鈴祓ひ」を行う神社の片隅には、この秋も「実むら物語』を書き残した一人の女性の存在を匂わせます。「千年状にもつながり、「むらさき」の印象が「千年」前に『源氏状にもつながり、「むらさき」の印象が「千年」前に『源氏法かされているかが分かります。「実」の一字が「鈴」の形はみに上五を「紫式部」に替えてみると、傍題がいかに試みに上五を「紫式部」に替えてみると、傍題がいかに

地

実むらさき潰して色のなかりけりいさな歌鈴

層「実むらさき」の紫色の美しさを思わせます。ます。「潰して色のなかりけり」という淡々たる呟きが、一かに「むらさき」の汁がでるわけではないのだろうと思い「実むらさき」の実を「潰し」た経験はないのですが、確

夢に恋うひとへ実むらさきの礫

はまゆう

に投げる「礫」であるよ……とは、可愛くも切ない恋心です。が見事にバランスを保ちます。「実むらさき」は詮ない恋人タルに傾いているかとも思いますが、後半「実むらさきの礫」「夢に恋うひとへ」という前半の措辞は、 ややセンチメン

実むらさきさびしい人はむらさきに 小木さん

色に増えてくるような幻覚に襲われます。に心を衝かれます。「さびしい人」たちの影が「むらさき」感情を肯った上で、「さびしい人はむらさきに」という詩語感情を告った上で、「さびしい人はむらさき」=「さびしい」という「むらさき」は高貴な色とされてきましたが、どこか淋し

実むらさき山の名前のかなしさう 花紋

の手に小さな「実むらさき」を手渡してあげたくなります。と感じてしまう作者の心に寄り添いたくなってきます。そんな山の名前かしらと思いつつも、それを「かなしさう」どいう感情で結ばれたのでしょうか。ど「実むらさき」の美しい色と、ふと目にした「山の名前」

さるぼぼ @ チーム天地夢遥

球体になりたがるみづ実紫

や悲しさも「球体」になりたがっているのかも……。わないではいられません。わたくしの心の中にある寂しさ紫」も「球体」になりたくてこの形になったのでは、と思体になりたがるみづ」と言い切ることで、ひょっとすると「実「みづ」が「球体」になるのは当たり前の事実ですが、「球

実むらさき目の無い魚は泣けませぬ 小泉岩魚

もできない自分の心の比喩でしょうか。「実むらさき」を見「目の無い魚」は深海にいる魚たちでしょうか。泣くこと

た諦観も読み取れます。したのかもしれません。「泣けませぬ」という語りに、濡れつめていると、「目の無い魚」の哀しみに触れたような気が

水晶体濁らばかへよ実紫

まとん

に響きます。の連想ゆえかもしれません。命令形の切なさが読み手の心の連想ゆえかもしれません。命令形の切なさが読み手の心のか。そんな心の濁りを思わせるのも、「実紫」=「紫式部」と呟く一句。悲しい恋に濁るのか、こらえがたい嫉妬に濁ると呟く一句。悲しい恋に濁るのか、こらえがたい嫉妬に濁るれが眼球の「水晶体」が濁ったとしたら取り替えなさい、我が眼球の「水晶体」が濁ったとしたら取り替えなさい、

釈迦の目の埃はきれい実紫

まこちふる

語が絶妙のバランスです。もしれません。その「埃」と「実紫」を繋ぐ「きれい」の一れとも「釈迦の目の埃」に比喩的意味を持たせているのかいるのでしょうか、ただただ見上げているのでしょうか。そ「釈迦」像の「目」にたまっている「埃」を拭おうとして

実むらさき明るく鳥が死んでゐる 玉庭マサアキ

「実むらさき」という季語の奥行きを垣間見たようなのでしょうか。籠の小鳥が「死んでゐる」のに気付いたののでしょうか。籠の小鳥が「死んでゐる」のに気付いたののでしょうか。籠の小鳥が「死んでゐる」「鳥」を見つけた

嚔含为

第 251 回

2020年11月16日週掲載

粘膜が刺激されることで起こる反射運動の一種。《冬》「くさめ」。くしゃみのこと。寒気や大気中の塵で鼻の

くつさめや灯油ポンプは手動式

にゃん

まるで己の「くつさめ」の息を補充するかのようで、愉快手にした「ポンプ」は「手動式」。パフパフと握る感触は、口から外に出た場面でしょうか。「灯油」を入れるために勝手も早いよな……などと思いつつ、灯油を入れるために勝手も早いよな……などと思いつつ、灯油を入れるために勝手も早いよな……などと思いつつ、灯油を入れるために勝手も早いよな……などと思いつ、灯油を入れるために勝手するで己の「くつさめ」を強調する「や」は、まさに今、ハックショ「くつさめ」を強調する「や」は、まさに今、ハックショ

いて、五感の様々をリアルに刺激する。配慮の行き届いた作品です。油」の匂いもツンと我が鼻腔を指します。軽く作っているようで「くつさめ」の音と体感、「手動式」の我が手の感触、さらに「灯

地

鼻の奥嚔の玉が今割れる

シュリ

した。 ていたのですが、果敢に挑んだ作品が幾つかあって驚きま「嚔」の一物仕立てはかなり難しいので、まさかとは思っ

覚です。 ズムズしたり、目のあたりがチカチカしたりというあの感ましたね。その聴覚に続くのが触覚かと思います。鼻がム分析。火曜日俳句道場にて、碧西里さんが解説してくれて「嚔」という季語の成分は、聴覚が抜きんでているという

の一物仕立てを成立させました。敢闘賞ものの一句です。聴覚と触覚が確保され、「今」という短い時間の表現が「嚔」れていき、嗚呼嗚呼と思うちに、ハックション!と割れる。を吹く時のように、「鼻の奥」にて「嚔の玉」がじわじわ膨を吹く時のように、「鼻の奥」にて「嚔の玉」がじわじわ膨

嚔する眉間ひかひか発光す

播磨陽子

仕立てです。
せ立てです。
という音と息になる。季語「嚏」を詩的に表現し得た一物に「ひかひか」と光が集まってきて、一定量に達すると、「嚏」光する」という比喩にオリジナリティがあります。「眉間」という場所の指摘にリアリティがあり、「発で再現。「眉間」という場所の指摘にリアリティがあり、「発こちらは「嚏」の触覚を「ひかひか」というオノマトペ

嚔して頭蓋に揺れる水のあり

せり坊

着地も効果的。これも比喩を含んだ一物仕立てです。うな感覚だと気づいたのです。下五「あり」と言い切ったいるうちに、「頭蓋」の中にある「水」が「揺れる」かのよいックション!と「嚔」をする体感を自分に問い直して

津軽の嚔南部の嚔聞き分けり 吉行直人

ちが思われる。面白い視点です。おが思われる。面白い視点です。それぞれの歴史の成り立うのでしょうが、「嚔」を「聞き分け」ているところに俳味分のでしょうが、「嚔」を「聞き分け」ているところに俳味の中でも、全く異なる文化が培われてきた地域です。津軽の中でも、全く異なる文化が培われてきた地域です。津軽の中でも、全く異なる文化が培われてきた地域です。津軽の中でも、全く異なる文化が培われてきた地域です。津軽の中でも、全く異なる文化が培われてきた地域です。

嚏や7番ホームてふ孤島

あいだほ

品です。
品です。
品です。
は大きな「嚏」を響かせる。技術的にもしっかりした作「~てふ孤島」という比喩によって、人っ子ひとりいないホー番から7番までという空間の作り方が巧いですね。さらに倒ました。が、「7番ホーム」という数詞の効果、つまり1別という場所にての「嚏」という発想の句はたくさんあ

囲みデッサン5時方向より嚔 いさな歌鈴

「嚔」からの連想かもしれません。「嚔」からの連想かもしれません。真の中に描くべき何かが置いてあるのです。みな一心に見つめ、手を動かしているのです。みな一心に見つめ、手を動かしているのです。の針の「方向」から、いきなり「嚔」が聞こえてきたのです。の針の「方向」から、いきなり「嚔」が聞こえてきたのです。の針の「方向」から、いきなり「嚔」が聞こえてきたのです。「嚔」からの連想かもしれません。

タイガース貧打に嚔続けざま いしはまらんる

せん。阪神がんばれ! (うくが)のではいいではないと思います(笑)。これまでにも「タイガース」を診めたば、近のでいますが、そのほとんどが負けてる場面だったり、出会っていますが、そのほとんどが負けてる場面だったり、います(笑)。これまでにも「タイガース」を詠んだ句には、折々います(笑)。これまでにも「タイガース」を詠んだ句には、折々います(笑)。これまでにも「タイガース」を詠んだ句には、折々います(笑)。

老衰よ木くずこぼるるよな**嚔** ウェンズデー正人

場感が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。場の十二音に季語を入れつつ、全体のバランスをとらなてはならないのです。かなり難しい。それを可能にしたくてはならないのです。かなり難しい。それを可能にしたな「嚏」の喩えとして機能していきます。一句詠み終えて、勇気がいります。こんな抽象名詞を上五に置いてしまうと、勇気がいります。こんな抽象名詞を上五に置いてしまうと、明常が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。場際が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。場際が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。場際が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。場際が押し寄せてきます。やがて我が身……の「嚏」です。

モナリザのあれは嚔を了えた顔 稗田鈴二郎

あまりにも大きな嚔だったのか、可愛い嚔だったのか。あら、もまあ、そんなことを思い付くものだと愉快になりました。あとのちょっとはにかんだ表情なのだというのです。よく「モナリザ」のあの微妙な微笑みは、「嚔」を「了えた」

た。 ないという作者の企みに乗っかって、楽しませてもらいまし失礼……と軽く会釈したあとの表情があの「顔」かもしれ

ワシコフの大きなくしゃみ露西亜型 亀田荒太

の冬が訪れているのです。は石榴を打ち落としていたワシコフ氏にも、深い「露西亜」西亜型」とダメ押ししてるのが、ヘタうまの味わい。秋にあります。それを本歌取りしての一句。下五に敢えて「露西東三鬼の句に「露人ワシコフ叫びて石榴打ち落す」が

第25回 2020年11月30日週掲載

熱燗

調理器具や電子レンジなどを使うことも多い。などの熱湯に銚子をつけるなどして燗をしたり、最近では《冬》酒の燗を特に熱くすること、またその酒のこと。鉄瓶

天

熱燗の腹の継ぎ目のかたちかな 常幸龍BCAD

句を『天』に推します。 今回の『天』は悩みました。季語「熱燗」の持つ人生の今回の『天』は悩みました。季語「熱燗」の持つという季語の特性と真っ向勝負にでた意欲を買って、このに熱燗」が「腹」に落ちてくる句も山ほどありました。が、ここまで丁寧に描写すると一気にリアリティとオリジナリここまで丁寧に描写すると一気にリアリティとオリジナリことまで丁寧に描写すると一気にリアリティとオリジナリスをでいる。 「熱別「燗」はどちらも温度の高さを意味する文字。この「熱燗」の表に、が、で、本のでは、味わい深いものがありました。が、表別のがありました。

という言葉です。普段は意識することもない内臓に「継ぎ目」喉の壁を伝いつつ「腹」へ。この句の眼目の一つは「継ぎ目」「熱燗」が舌から喉へと落ちていきます。熱のかたまりは

臓壁で捉えるという酒飲みならではの一句です。の継ぎ目のかたち」をしみじみと味わいつつ、「熱燗」を内イメージさせ、下五「かな」が全ての言葉を受け止めます。「腹げることによって、熱い酒がゆっくりと落ちていく時間もメ押しが下五「かたちかな」という詠嘆。助詞「の」を繋があると感知した点に俳味があります。そして、更なるダがあると感知した点に俳味があります。そして、更なるダ

地

熱燗や重心臍を外れだし

戸部紅屑

快ですし、実感もあります。下五を、切れのない型にした心」が勝手に「臍」を外れていくのだ、と発想した点が愉かっ払ってフラフラするのは当然のことですが、それを「重

のも効果的な配慮です。

RUSTY=HISOKAはした金惜し熱燗の香のつんと

まうのです。
き香りだと思う……と、また「はした金惜し」と呟いてしています。「熱燗の香」が鼻腔に「つん」とくる。ああ、佳てみたいが……「はした金」もやはり金。惜しいにきまっ「はした金」などくれてやる!と毒づけるものなら、つい

「だいぶ縮んでた」という口語表現に共感が湧きます。えていた先生は、こんなに小さな人だったのだという感慨。酌み交わしていることは想像できます。あんなに大きく見「熱燗や」の後に「恩師」という人物が出てくれば、共に

熱燗や座敷わらしを膝へ呼ぶ いさな歌鈴

「熱燗や」の後に、今度は「座敷わらし」です。北国の古

をすする。虚実の狭間に遊ぶ一句です。か。「座敷わらし」を「膝へ」呼んで、頭を撫でながら「熱燗」い家でしょうか、座敷童子がいるという評判の宿でしょう

きゅうもん@木の芽やまいぬのやうな眼のをんなと熱燗

語「熱燗」を印象づける。手練れの技です。くるかのようです。破調のリズムを活かしつつ、最後に季であると分かったとたん、「熱燗」の匂いが急に濃くなっての匂いのする凶暴な眼です。その「眼」が「をんな」の眼「やまいぬのやうな」は「眼」にかかっていきます。野性

熱燗や火の舌をもて国を説く

古田秀

島由紀夫の幻影も見えたような気がしました。を憂う気持ちから発する議論でしょう。かつて学生運動に勢いで語っているのだと分かります。「国を説く」とは、国勢いで語っているのだと分かります。「国を説く」とは、国勢いで語っているのだと分かります。「国を説く」とは、国勢いで語っているのだと分かります。「国を説く」とは、国

こつそりと弔辞褒められ燗熱し

木江

が巧みです。を返す。そんな場面を描く工夫として、上五「こつそりと」を返す。そんな場面を描く工夫として、上五「こつそりと」みたよ、いい弔辞だったと「褒められ」て、静かな微笑みや告別式で、最後のお別れの言葉を述べたのです。胸に沁に弔辞」ですから、作中人物は故人と親しかった人。葬儀

おほかたは去りて熱燗めんどくさ

利尻

宴会なのか、葬儀なのか、さっきまでいた人々の「おほ

熱燗をひっかけ潜るシュラフかな ざうこ

ているのだな、と想像が広がっていきます。 落とす前に熱燗をひっかけたのだな、冷たい星空が広がっ夜になると気温が下がってくる。テントの中は寒い。火を寝する蒲団ではなく、一人キャンプの「シュラフ」だろうか、フかな」という下五にささやかな意外性があります。ふてという展開を一瞬思ってしまいました。そこからの「シュラという展開を一瞬思ってしまいました。そこからの「シュラー、熱燗をひっかけ潜る」で、我が脳は先走り「蒲団かな」

熱燗や映画のロシア人悪い 玉庭マサアキ

たな~という感じです。人悪い」と呟くだけで一句になる!という驚き。してやられたのではないでしょうか。「熱燗や」の後に「映画のロシアとの季語での取り合わせは、案外難しいと感じた人も多かって熱燗や」という上五がずらーーっと並んだ今週ですが、「熱燗や」という上五がずらーーっと並んだ今週ですが、

を下支えしているのかもな、と納得した次第です。せいっくりこない。「ロシア」という国名が「熱燗」の熱さけダ人」など3音の国名を入れ替えてみたのですが、どう試みに、「ロシア人」のところに「ギリシャ人」「ローマ人」「カでどんな役回りの「ロシア人」なのか、妙に気になります。けなのですが、どんな「映画」を観たのか、どんなストーリー「熱燗」飲みながらさっき観た「映画」の話をしているだ

たい放題やってくれてます(笑)。けなくても褒める」「熱燗や日本の神みな寂し」など、やり同時投句「熱燗や前世が猫の方こちら」「熱燗や灘高行

鮫さめ

長は種類によって様々である。称。。体表はザラザラし、頭部はとがっており歯が鋭い。体《冬》「さめ」。軟骨漁網に属する紡錘形の体型をした魚の総

天

竈へ火ハレの日の鮫切り分けて いさな歌鈴

という食べ物は特別な印象がありました。新鮮な魚介類はいくらでもあったのですが、それでも「鮫」必ずフカの湯ざらしが並んでおりました。海辺の町なので、物でした。私の故郷愛南町では、祝い事や弔い事の皿鉢には、本来の「鮫」という季語は、まさに「ハレの日」の食べ本来の「鮫」という季語は、まさに「ハレの日」の食べ

運ぶのはとても難しいことだったのです。届けられますが、かつては、海のない内陸部の県まで魚を一冷蔵技術が進歩してきた現在は、全国各地へ新鮮な魚が

て定着した。また、正月やハレの日の食材としても重宝さ度日持ちするので、内陸県へ流通し、貴重な冬の味覚とし参のはアンモニアが生じて雑菌の繁殖を防ぎ腐敗を遅らせいできるため、特に、冬場は生魚のままでもある程をすることは困難で、塩漬けや干物が一般的だった。しかし、利下、いなさ歌鈴さんが火曜日「俳句道場」に寄せてく以下、いなさ歌鈴さんが火曜日「俳句道場」に寄せてく

いさな歌鈴以上。今、締切前で頑張って句を作り直しています (笑)/以上。今、締切前で頑張って句を作り直しています (笑)/にかけて。特に、寒中で獲れた鮫は身が締まり美味である。◇鮫は種類が多くほぼ一年中獲れるが、鮫漁の旬は冬~春

のできた、掲出句の光景だろうと思います。現場を想像する。脳内吟行の精度が高いからこそ観ることでしょう。季語についての情報を集め、ありありと季語のこのような情報収集の上で、出来上がったのがこの作品

ようになってから肴として味わえるようになりました。という料理、子どもの頃の私は大嫌いでしたが、酒を飲むや々に湯に放たれて湯ざらしとなります。祖母の作る酢味でも人を捌くのは男の仕事でした。)祖父が捌いた「鮫」は、その時代は、女は不浄のものであるからという理由で、ナージを捌くのは男の仕事でした。祖父が捌いた「鮫」は、おが生家にも大きな「竈」がありました。祖母が土間の我が生家にも大きな「竈」がありました。祖母が土間の我が生家にも大きな「竈」がありました。祖母が土間の

たかのような一句。懐かしく読ませてもらいました。 かつて「鮫」とはこういう食べ物であったことを記録し

地

やはり小便臭いぢゃないか鮫は

⑦パパ@いつき組広ブロ俳句部

言葉もリアリティを演出しています。らしい現場証明があります。切れのない形で放り出されたです。が、思わず口をついて出てきたようなこの一句には「鮫持ちするわけですから、文句を言われる筋合いではないの抉って、

空はハレ鮫の臭気のきらきらとけーい○

一つですね。 う措辞は晴天を連想させます。そこは勿論、作者の工夫の「ハレ」とは晴れと褻の「ハレ」ですが、「空はハレ」とい

かに支えます。と臭ってくるという表現が、「天はハレ」という上五を鮮やいではありませんが、それが鼻を刺すように「きらきら」「鮫の臭気」つまりアンモニア臭は、あまり歓迎される匂

ぼくぼくと殴たれて白い白い鮫 すりいぴい

中の「鮫」にトドメをさす魚打ち棒を思わせるのが、「ぼく網にかかった「鮫」を思いました。引き上げられた網の

は、のたうち暴れる白い腹を思わせます。無残な白です。ぼく」というオノマトペ。「殴たれて」に続く「白い白い鮫」

煙草吸ふ間ありて鱶撃ち中だるみ

きゅうもん@木ノ芽

ません。

くたばりそうな鮫の吐き出す血がぬるい

つ血の印象をそう表現したのだろうと読みました。度としての「ぬるい」ではなく、アンモニア臭の中でのたうるい」と感じるところに俳人の感知があります。実際の温恐ろしい眼。凶暴そうな口から、時折吐き出される「血」を「ぬだくたばりそうな鮫」をじっと眺めているのです。白い腹。

鮫の輪切り鮫のかたちに並べけり

RUSTY = HISOKA

いたに違いないし……と思いなおしたり。ま、とにかく、こが、標本を作るためには実際に「輪切り」にしてみた人は見つけました。標本ならば季語とは違う?とも思いましたのですが、標本としてそのような切り方をしてある写真を「鮫」を輪切りに?!と驚き、念のためネットで調べてみた

てしまった一句です。らせて泳ぐ。そんな妄想にも囚われ、脳から離れなくなっいっていい。そんな妄想にも囚われ、脳から離れなくなっ深海で輪切りにされた鮫が、ジャバラのような体をくね

衝撃を受けてしまいました。

の句に季節感があるかないかという問題を遙かに越えて、

鮫の子を掻き出し鮫のがらんどう 高橋!

アンモニア臭を放ちつつ、ヌメヌメとそこにいるのでしょう。ありありと見えてきました。掻き出された「鮫の子」たちも、だした後を「鮫のがらんどう」と表現したことで、映像がでしょうか、すでに鮫の形をしていたのでしょうか。掻き「鮫」は卵生、卵胎生、胎生があるという事実にも驚きます。

八雲立つやさしき鮫を干しにけり 高田祥聖

間を思わせる詠嘆として生きています。して干されている。下五「けり」が、神代からの悠久の時めた鮫たちの末裔でしょうか。その鮫たちは、今、干物とにかかる枕詞です。「やさしき鮫」とは因幡の白兎を懲らしにかま立つ」は、多くの雲が立ちのぼる意で、地名「出雲」

鮫かなし詩人の骨はつめたからう 一阿蘇鷲二

囚われたのでしょうか。といい「鮫」とはなんと悲しい存在であるかという思いにという季語について色々調べていくうちに、形といい生態「鮫かなし」とは、いきなり何だろうと思います。「鮫」

かもしれません。人の骨はつめたからう」という詩的感慨にたどりついたの口の骨だけが残る。作者は、「鮫」と己の存在を重ねて「詩の一つですが、捨てる部位がないほど人間に使い尽くされ、口あたりの骨しか残らないということも今回知ったこと

片頭痛食はせる鮫を飼つてゐる 土井デボン探花

を餌として「食はせ」ている! そうか、だから「鮫」はな鮫を飼っていて、嗚呼、頭が痛いと思うたびに「偏頭痛」食べさせるためというのが実にユニーク。水槽の中に小さう発想は外にもあったのですが、その目的が「片頭痛」を感の世界に遊んだ句も沢山ありました。「鮫」を飼うとい虚の世界に遊んだ句も沢山ありました。「鮫」を飼うとい

面白かった作品です。あんな目を剥いたような顔してんだと、妙に納得がいって、

第25回 2021年1月11日週掲載

寒海苔

3月頃まで採れるが、寒中のものが特に上質である。《冬》浅草海苔などの甘海苔を一般的に海苔と呼び、11月頃~

7

寒海苔を洗ふ真水の匂ひ初む

くりでん

だったと記憶しています。
苔網を引き揚げ、海苔だけを巻き取る?摘み取る?仕組みす。寒風の漁場では、船の上のウィンチのようなもので海愛媛県西条市の海苔養殖場に口ケに行ったことがありま

とでもあるのだなと気づかさる一瞬です。 とでもあるのだなと気づかさる一瞬です。 果知問し、水洗いします。 真水の匂ひ初む」と表現したのでしょう。 手の切れるように冷たい寒の「真水」に「寒海苔」の匂いが交じる瞬間、それをのない「真水」に「寒海苔」の匂いが交じる瞬間、それを「真水」で洗い、小さな砂やゴミを取り除くのですが、匂い収穫した寒海苔は、すぐに作業場に運ばれ、水洗いします収穫した寒海苔は、すぐに作業場に運ばれ、水洗いします

ういう意味においても推奨したいと思った作品です。 では、視覚以外をどこまでリアルにとらえられるかです。そこの現場に立ったことがあるのでしょうか。もし、YouTubeなどの映像を観て、この句が生まれたのだとすれば、嗅覚などの映像を観て、この句が生まれたのだとすれば、嗅覚などの映像を観で、この句が生まれたのだとすれば、嗅覚などの映像を観で、この句が上のでしょうか。もし、YouTubeなどの現場に立ち合い、この「匂ひ」の変私はたまたまこんな現場に立ち合い、この「匂ひ」の変

地

寒海苔や千畳岩を太らせて うづら@第二まる安

らぐさまも見えてくるようです。 海苔」の豊漁も読み取れ、冷たく荒い潮に「寒海苔」が揺 と等が想像できます。下五「太らせて」の描写によって「寒 この岩のある場所は北海道の江差かもめ島かもしれないこ 上五「寒海苔や」によって、この海苔が岩海苔であること。 「千畳岩」と呼ばれる岩は全国各地にあるのでしょうが、

寒海苔や浪のおほかみ吠えかかる いしはまらんる

……という思いも滲ませます。 えかかる」は、漁に出られるものなら出たいがこの浪では では、今日の漁は無理なのでしょう。捕るにしても、干す と同時に、浪の音の不気味さも表現しています。下五「吠 にしても天候との相談。「浪のおほかみ」は狂暴であること 寒海苔の太る頃の寒い海をストレートに比喩。こんな「浪」

海は牢獄めいて寒海苔絡みつく けーい〇

半の比喩から、後半の映像へ。「絡みつく」もまさに海苔網 の形状をリアルに描写しています。 ちました。この詩句が、あの暗く冷たい「海」をありあり げられていく時、この「海は牢獄めいて」に近い印象を持 する海苔を付着させるための海苔粗朶(浅い海中に立てる と思い出させてくれた、と言い換えてもよいでしょう。前 木や竹の枝)ではなく、沈めた網で育てる方法ではないかと。 前述のロケ現場。海中に沈められている海苔網が引き上 これは岩海苔ではなく、海苔網だろうと思います。養殖

寒海苔を干しゐて髭に洟としほ

古田秀

目の付け所です。勿論似たような視点で、「寒海苔」作業の 現場を書いた句が他にもありましたが、「洟としほ」という 表現が的確で巧いですね。「寒海苔」を漉いた海苔簀を干し 「寒海苔」の「寒」の一字を保証する意味で、下五は良い

> 観ているかのような一句です。 ていく作業もまた、寒風の中の仕事。この「髭」を眼前に

寒海苔の裏にそそける風の痕

ける」という動詞の選択が映像的でもあります。 その視点にリアリティとオリジナリティがあります。「そそ ているのです。嗚呼、これは寒風の「痕」に違いないと思う。 しょう。 「寒海苔」の「裏」の、ある部分がそそけたようになっ 海苔簀に乾いた「寒海苔」を一枚一枚はぎとっているので

寒海苔干され鳥の口の生臭き

トマト使いめりるりら

う。後半の「烏の口の生臭き」という措辞が生々しく、「寒 どに人馴れしている烏が、餌を探して寄ってくるのでしょ あるようです。そこにやってくるのは鳥。ずうずうしいほ 海苔」の強い香りと相まって、何やら圧倒されました。 地によっては、広げ干したり、吊し干したりするところも 「寒海苔」の海苔簀が立てかけられている干し場です。産

寒海苔や静かに海の体臭来 伊予吟会 宵嵐

まさに「寒」の一字の力を発揮させている作品です。 と静かな強さをもっています。「新海苔」「初海苔」ではない 点に詩があります。「静かに~来」という表現は、ひたひた 「寒海苔」の強い香りを、「海の体臭」であると把握した

寒海苔や神の名のよなうっぷるい 古都ぎんう

集う国です。日本海の冷たい潮が育てる見事な「寒海苔」 射た呟きです。しかも場所は、島根の出雲市。まさに神の かなりあったのですが、「神の名のよな」は正直にして的を で、岩海苔の産地です。「十六島」という地名を入れた句も 「うっぷるい」は日本海に突き出す十六島鼻と呼ばれる岬

> 比喩です。 同時投句「経典のごとく寒海苔干されをり」も、面白い

練炭に落つ寒海苔の屑香ばし

トポル

験の強みではないかと受け止めました。 の匂いを感じ取ったのではないかと思わせる力があります。 海苔」と同じものではあるのだけれど、「寒」という季節 海苔の屑」が思わぬ強い香を放ったのです。その海苔は「新 があります。「練炭」で焙っているのですね。そこに落ちた「寒 「練炭」との季重なりですが、バランスもとれていて、実体 製品になっている「寒海苔」ですが、非常にリアリティ

第 255 回 2021年1月25日週掲載

翼の先が尖り、眼は鋭く、素早く飛行する。 多種におよぶ。一般に、鷲よりも嘴が短く、足や指が細い 《冬》タカ目タカ科の猛禽のうち、鷲より小型のものをいい、

御巣鷹はしづかな墓標鷹昇る

石井一草

チャーミットを構えていたのですが、この句が飛び込んで の句を天に推すことになるだろうと、そのあたりにキャッ 兼題「鷹」の取り合わせは凄く難しいから、一物仕立て

の選択によって、作品の味わいは物凄く違ってくることを ありました。が、敢えて今回これを推すのは、残りの音数 を使った句、「御巣鷹」「墓標」二つの言葉を入れた類句も つです。実際、今回の投句には「御巣鷹」という固有名詞 題において、鷹の文字の入った言葉を使うやり方も定石の一 兼題「鷹」と「鷲」の違いをどう表現するか、という命

お伝えしたかったからです。

故当日には慰霊祭が行われていると聞きます。 1985年 (昭和6年) 8月12日のことでした。 今も、 事 言うまでもなく御巣鷹山は、墜落事故のあった山。

の効果は愕然と違います。「舞う」の擬人化、ある種の華や う」を使った句は物凄く沢山ありました。)「舞う」と「昇る」 かさは一句の鎮魂の想いにそぐいません。 かな」は、その山の様子であり、鎮魂の静けさでもあるのです。 事故の記憶を抱えた深閑たる墓標として聳えている。「しづ たりもします。が、この句の場合は、御巣鷹山そのものが く使われる単語ですし、油断するとありふれた使い方になっ 「鷹の舞う」「鷹舞へり」だったとします。(実際に動詞「舞 この句のポイントの一つは「しづかな」です。俳句ではよ さらに下五「昇る」の選択も重要でした。仮に、下五が

がゆっくりと天へ昇っていく。そんな印象を与えます。 「御巣鷹」で亡くなった方々の魂を抱き、魂を守るように「鷹」 かたや「昇る」は、渡りの前の鷹柱の動きを想像させます。

味わいや効果が全く違ってくる。自分の句とあの句は似た 有難い教材のような一句でした。一草くん、ありがとう。 析してみましょうと、お伝えしたい。そういう意味において、 ような言葉を使ってる、類句だ! と騒ぐ前に、丁寧に分 たった17音しかない俳句ですから、一語の選択によって、

> 品でした。立志くん、ありがとう。 向かって縮んでいくという、離れ業をやってるわけです。 いき、「鷹の視野」 まで一旦高く広がってから、再び 「野鼠へ」 これも、天に推して、同じように解説したいぐらいの作

藪へ鷹突つ込み悲鳴一度きり 阿蘇鷲二

です。 に託す。簡潔な描写でリアルな光景を描く。さすがの一句 観ているような気持ちになりました。「藪」の中で起こって いることはなにも書かず、「悲鳴一度きり」という描写のみ 一読、NHK『ダーウィンが来た』のドキュメンタリーを

方

鷹の爪より恍惚の耳垂るる

にゃん

とクローズアップしてから、それが掴んでいる獲物の「耳 へと映像が動いていく。これもカメラワークが見事な作品 て、小さな野ウサギかもしれないと思いました。「鷹の爪 「恍惚の耳」という表現に詩があります。「耳垂るる」によっ

ただ鷹の食ひちぎる音風の音 中岡秀次

アリティにも圧倒されます。「鷹」が獲物の肉を「食ひちぎる」 か、というのも大きな命題の一つです。この句の「音」のリ いのですが、種類の違う音を見事に描きました。 かすかな音が、我が耳奥に伝わってくるような、静かな迫 力に感服します。一句に、二つの「音」を詠み込むのも難し 俳句において「音」をどう描くか、読者の耳に聞かせる

野鼠へ縮まってゆく鷹の視野

の句を「地」に推したいのは、描写の確かさが全く違うか

実は「野鼠」と「鷹」の句もかなりありました。が、こ

俳句ファイヤー立志@TFP句会

きく映し出します。が、その後の描写の工夫が見事なんです。

「野鼠」から始まると、私たちの脳内カメラは、野鼠を大

「へ」という助詞によって、野鼠へ向かってという方向が示

地

鷹征けば傾ぐ関東平野かな

比々き

視界を思わせつつ、「関東平野」の俯瞰図を見せる。さすが さらに「征けば」は、征くときはいつもというニュアンスを 表現しますから、その叙述も的確です。「傾ぐ」は鷹自身の 堂々たる「鷹」に対して「征」の一字の選択が見事です。

脳内カメラは野鼠の大写しから、カメラがぐーんと引いて され、さらに「~へ縮まっていく」のです。この中七によって、

はベテランの技です。

天道より覗く鷹柱が卍

かもん丸茶

は、まるで「卍」のようであるよ、という一句。 みると、複数の鷹がゆっくりと回りながら昇ってくる「鷹柱 道という意味で読みました。天体が運行する道から覗いて 「天道」には幾つかの意味がありますが、天体が運行する カタチの把握がユニークな作品です。 視点の置き

鷹しづか青き心臓もて眠る

ぐ

うか、蒼鷹を思い浮かべたものですから、鷹狩りの前夜の という表現が新鮮な詩性です。「青」の一字の印象からでしょ じました。 ような静かな緊迫感が一句の底にながれているようにも感 眠る「鷹」をリアルに描いた句もありましたが、「青き心臓

鷹はるか吾が墓小さくここに在り

RUSTY=HISOKA

を見下ろしているのではないかと、感銘を受けた作品です。 犠牲者のたましいたちは、こんなふうに御巣鷹という墓標 るという虚の世界。昇っていく魂。今回の天に推した句の、 かのような感覚です。「吾が墓」が「小さく」「ここに」在 自分の躰を離れた魂が、「鷹」とともに地上を離れていく

王の名を知らず墳墓の上を鷹

くりでん

う時間と、「墳墓の上」という空間を悠々と飛ぶ「鷹」です るでしょう。「鷹」自身は、そこに眠る「王」の名を知らな いまま、「墳墓」を見下ろして飛んでいくのです。歴史とい 日本の古墳を思う人もあれば、外国の墳墓を思う人もあ

山辺冬里

みでありました。という驚きの伏線となっていて、これもカメラワークが巧固有名詞の力でしょう。「隣の客」という距離感が、「腕に鷹」といわれると、あるかもしれないと思ってしまう。これもの空港だとちょっと考えにくい場面ですが、「ドーハ空港」こんな発想の句がでてくるとは思いませんでした。日本

第25回 2021年2月8日週掲載

狐火

《冬》田舎の畦道やお墓などで、ゆらゆらと妖しい火が連なっくをか田舎の畦道やお墓などとして、狐たちが灯す明かりといわるが田舎の畦道やお墓などで、ゆらゆらと妖しい火が連なっともいわれている。

天

河川課のみな狐火を見しといふ 一阿蘇鷲二

違いないと気づきました。

さく、地理の季語であることの不思議から生まれた作品になく、地理の季語であることの不思議から生まれた作品にび上がってきました。狐火はなぜ地理の季語なんだろう、との句は、いかに生々しい恐怖を描くかという視点ではび上がってきました。狐火はなぜ地理の季語なんだろう、と、あれてれ選を迷っていたのですが、小さな疑問が再び浮かした。ひたひたと怖ろしさが押し寄せてくる秀句も多く、兼題「狐火」らしくおどろおどろしい句が沢山集まりま

う。 だけではなく、川や水源の森などの現場へ足を運ぶのでしょ災害復旧などさまざまな仕事に携わります。 デスクワーク河川課は、河川の整備、水資源やダムの対策、護岸の整備

から。 ことじゃないですよ、河川課はみんな狐火に出会ってます 狐火? 見たことありますよ。いや、そんなに驚かれる

この句における「河川課」は、別の課に置き換えがたい

なことも思った次第です。 火」のオムニバス映画が作れてしまうのではないか。そんれ違った狐火を見せてしまうのではないか。この一句から「狐で、どんな狐火を見たのか。一人一人の深層心理が、それぞているのが、逆に恐ろしい。河川課の一人一人がどんな状況真実味があります。しかも、当たり前のように淡々と語っ真実味があります。しかも、当たり前のように淡々と語っ

強させてもらった作品です。 「狐火」を描くために、こんな切り口があったのかと、勉

地

狐火や門灯ならばもつと右 おぐら徳

の存在をまざまざと表現します。も怪しい火に目をこらします。中七下五の真実味が、「狐火」も怪しい火に目をこらします。中七下五の真実味が、「狐火」も怪しい火はまんだろう、「門灯ならばもつと右」にあるしあの火はなんだろう、「門灯ならばもつと右」にあるし

狐火の尾の長き夜や風強し 28あずきち

五の余韻が「狐火」にリアリティを添えます。だからかと、納得する。切字「や」の位置が効果的で、下火」は炎の尾っぽが長いなと気づく。そうか、風の強い夜、ちらの句は、折々「狐火」を見ている感じです。この「狐

狐火の右の二つは新しい 富山の露玉

ンプルな表現で、大きな効果を手に入れている作品です。合いの対比、火の勢いなどがありありと想像できます。シの二つに対して「新しい」としか述べてないのですが、色とで、狐火が幾つか列になっていることが分かります。そ中七下五の叙述が巧いですね。「右の二つ」と提示するこ中七下五の叙述が巧いですね。「右の二つ」と提示するこ

狐火を見し夜は乳がようけ出る ぐでたまご

「狐火」を見てから、何かが変わってしまうという発想の

います。てきます。方言もまた「狐火」を効果的に描く働きをしててきます。方言もまた「狐火」を効果的に描く働きをして怖いですね。乳の匂いや赤子の泣き声が、一句の奥から伝わっ句は沢山あったのですが、「乳がようけ出る」という台詞が

狐火を見しより月の物の来ず

樫の木

ではないか。そんな怖ろしさが、押し寄せてきます。か、このまま月を経ていく腹に怪異のものが育っていくのは怪談めいています。狐火とまぐわってしまったのではないこちらも「狐火」を見てからの変化ですが、「月の物の来ず」

夫に似ぬ子は狐火のごと美し

想像すると、ますます怖い一句。
作のよう。青白いまでに美しい肌をもった子に違いないと月の物が来なくなったという樫の木さんの句と、まるで連火」のように美しい、というのです。いつぞや狐火を見てから現しています。生まれた子は、夫に全く似てない。そして「狐悪かれるのだけれど恐ろしいという「狐火」の本意を表

濃き狐火にして藻の匂

くらげを

狐火やペてんぺてんと弾く琵琶 いなだはまち

つつ、琵琶に聞き入るさまが浮かんできて、ほのぼのと恐琶でしょうか、集まってきた炎たちが、ゆらゆらと揺らぎすし、「弾く」という感触でもあります。「狐火」を呼ぶ琵中七のオノマトペがよいですね。まさに琵琶の音の表現で「狐火」と「琵琶」を取り合わせた句もありはしましたが

ろしい一句です。

同時投句「戒名は長し狐火は明るし」の表現にも惹かれ

化膿してなほ狐火の余臭あり 倉木はじめ

アリティを添えています。 いことか。「余臭」という表現が巧みで、「狐火」に虚のリ 傷口からは、「狐火」の匂いがしているとは、なんと恐ろし 経っても癒えないのでしょう。とうとう「化膿」してきた 狐火の夜の怪我でしょうか。じくじく痛んで、いつまで

石千個夜には狐火とならむ

野良古

…のような。 2 仮定の事柄や想像した事柄などを表す。…であるような。 1断定的な推量の意を表す。…であろう。…だろう。 助動詞「む(ん)」が重なってできた連語です。 意味は次の二つ 「~ならむ」は、断定の助動詞「なり」の未然形+推量の

うと読むか、なるような……と読むかで、一句の世界に微 妙な違いが生まれます。 河原の石千個は、夜になればみんな「狐火」になるだろ

ていると読んだほうが、より恐ろしいのではないかと。そ れを知っていて、たぶん今夜も……というニュアンスで呟い たちにも思えてきて、疑いつつも怖くなってくる。そんな一 んな目で石を眺めると、それぞれの形がそれぞれの炎のか 私は、断定的な1の意味で読みました。この人物は、そ

て秀逸です。 同時投句 「踏みゆくはかつて狐火なりし石」も連作とし

第 257 回 2021年2月22日週掲載

春の夕焼

た雲や、薔薇色に染まった雪嶺など、様々な変化を見せる。 た夕焼を見られる。春は空中に水蒸気が多く、桃色に染まっ 《春》単に「夕焼」といえば夏の季語だが、夏以外でも趣の違っ

満ち満ちて春の夕焼の蹄洗場 まんぷく

馬具置き場と辿っていくと、蹄洗場ありました。馬装や手 西大学体育会馬術部のホームページ。馬場、内厩舎、馬房、 入れをするときに馬をつないでおく場所だそうです。馬を 洗うための水道もあり、馬のための扇風機もあったり。吟 行したいなあ!と思うほど、面白い句材がたくさんありま 「蹄洗場」とは? と調べてみました。 ヒットしたのが、 関

らなくなっていきました。「春の夕焼」は「はるのゆやけ 思うと、最初に抱いた感覚(言い過ぎ感)が次第に気にな 馬の機嫌もよく、何もかもが満ち満ちている感じなのだと すが、この日の練習なり試合なりが満足いくものであり と読めば、中七の音数も整います。 悩みました。これは「春の夕焼」に対する措辞ではありま さて、この一句、上五「満ち満ちて」が必要かどうか、少々

と「春の夕焼」には充足感があるというふうなことを書い な充足感が表現できた作品ではないかと思います。 のイメージなどが良き対比となって「春の夕焼」の柔らか ておられました。下五「蹄」のカタいイメージ、「洗」の水 火曜日俳句道場にて、どなたかが「春夕焼」と比較する

地

春の夕焼音ほど進まないバイク あいだほ

割には、あまりにもノロい。こんなバイク、あるよなあー だけど、これは「春の夕焼」と7音で読みたくなりますね という見事なアルアル感です。「春の夕焼」と読めば6音 夕方の土手の道を走るボロっちいバイク。勇ましい音の

> 春夕焼うさぎよりややあたたかい 常幸龍BCAD

775の韻律のほうが一句の、長閑な内容に似合っています。

くらいの温度なんだろうと、読者の想像も広がっていきます 夕焼」であるという詩的定義。ならば、冬の夕焼けはどの た一句。「うさぎよりやや」という微妙な温度こそが、「春 「春夕焼」を「うさぎ」の体温との比較で表現しようとし

春の夕焼がきれいで優等生をやめる ぐでたまご

思い出しました。 そこから変わることができる! と己を鼓舞した思春期を る」ことは私にとって大きな命題でした。町の高校に行けば、 個人的にすごく共感します。中学生の頃、「優等生をやめ

最後の一滴が、春の夕焼けの美しさであったのかもしれませ が意志を確認したのでしょうか。「優等生をやめる」決心の この句は「春の夕焼がきれい」という理由をつけて、

つなぐ手は淋しき鰭か春夕焼 めいおう星

いなあと思います。下五「春夕焼」、なんと淋しい色でしょ冷たく濡れた感触にハッとするのです。言葉の力ってすご 語「淋しき鰭」によって、その温もりが愕然と変わります。 片手は、誰かの手の温もりを感じます。ところが中七の詩 上五「つなぐ手」で二人の人物。さらに読者である私の

水のあるところは淋し春夕焼

ほろろ。

の色がいかにも淋しげであるのかもしれません。水辺に立 せん。「淋し」と言い切ると、心はますます淋しくなってい ちすくむ作者の心の色が、水へと及んでいるのかもしれま 「水のある」光景を「淋し」と呟く一句。水に映る「春夕焼

銃声の水めく余韻春夕焼

阿蘇鷲二

消えていくのですね。 それだ!と思います。そして「春夕焼」の汀にゆっくりと響く「銃声」は、まるで「水めく余韻」で広がる。まさに上五中七が表現していることにハッとしました。ターンと上五中七が表現していることがあります。映画やドラマで聞猟の「銃声」を聞くことがあります。映画やドラマで聞

春のゆふやけ壊れてゐるフラミンゴ

蟻馬次郎@TFP句会

¬ い「寝してららった、「晕「唇つかいのけ」が寝して、そこに拘って作句してくれた人たちもいました。 今回の兼題「春の夕焼」に、「の」が入っていたものですから、

ミンゴ」が壊れているという意味にとれます。いるのか?と思うのですが、読み下してみると下五「フラー七「壊れてゐる」は、一瞬「春のゆふやけ」が壊れて

と寂寥感などが、詩の純度を高めます。とフラミンゴの色合い、「春のゆふやけ」が内包する充足感みたいだよ、という比喩として解釈できそうです。春夕焼となれば、「春のゆふやけ」とは「壊れてゐるフラミンゴ」

石鹸に嘴のあと春夕焼

南風の記憶

ます。
た一句。「春夕焼」の優しい色合いが作品の世界を包み込みのあと」だと気づいた時の、心の動きを追体験させてくれのあと」だと気づいた時の、心の動きを追体験させてくれのへんな傷はなんだろうと、一瞬考えるのです。これは「嘴外の手洗い場におかれている「石鹸」を思いました。こ

白鳥の溺死しそうな春夕焼

トポル

いう比喩にユーモアと真実味があります。私は、松山のお美しい「春夕焼」の表現として「白鳥の溺死しそうな」とまこの地に暮らしているのでしょう。湖なのか、お濠か。勿論「白鳥」は冬の季語ですが、この白鳥は帰らないま

濠の白鳥を思いました。

プランには春の夕焼を含みます ほしのあお

ウイットがあります。良き旅をどうぞ♪の夕焼」を見せてあげたい。「~を含みます」という表現にというプランかもしれませんね。最後は、この地の美しい「春旅の「プラン」でしょうか。 友達や恋人を案内してあげる、

第25回 2021年3月8日週掲載

磯巾着 いそぎんちゃく

に似ている。を受けると素早く球状に縮む様子が、巾着の口を締めるのとがいると素早く球状に縮む様子が、巾着の口を締めるのンチャク目の総称。円筒状で先に多くの触手があり、刺激《春》浅海の岩礁などに固着する、刺胞動物花虫類イソギ

天

四捨五入されし死者数いそぎんちやく

ケレン味太郎

品です。 という措辞のなんと惨いことかと、改めて突きつけらた作ます。が、一人一人の命を思う時、「四捨五入されし死者数」死者数を四捨五入して伝えるということはあろうかと思いや新聞記事などでは、大きな災害や事故になればなるほど、昨日、3月11日は東北大震災のあった日。テレビニュース

独特の調べも獲得しています。「ししゃすう」「いそぎんちゃく」と、サ行と拗音を配しつつ、ていた季語だけに、衝撃を受けました。「ししゃごにゅう」るこの生き物の不気味さも表現。取り合わせは難しいと思っり合わせることによって、海中の岩にて触手を戦がせていり合わせることによって、海中の岩にて触手を戦がせていり合わせることによって、海中の岩にて触手を戦がせていり合い調がある。

地

いそぎんちゃく見えざる物に触れ縮む 北野きのこ

と思います。と思います。こんな句に出会うと、やはり俳句は観察なのだえざる物」によって起こっているという事実そのものに力が「触れ縮む」という動きをよく観察していますし、それが「見まさに、こんな動きをするのが「いそぎんちゃく」です。

すくりゅうの渦にひとはな磯巾着 えいぎょ

現した点に詩があります。がそよいだり縮んだりする。そのさまを「ひとはな」と表岩場を離れていくスクリューの「渦」によって、「磯巾着」小さな舟についている船外機の「すくりゆう」ですね。

上五の平仮名書きの効果も、よく見極めています。

磯巾着の口へと沈むカサゴの眼

んでいく小さな「カサゴの眼」の切なさに胸を打たれます。とすれば尾鰭からだろうと推測します。「磯巾着の口へ」沈さな魚たちは食べられまいと逃げるわけですから、捕まる他にもあったのですが、これもよく観察した作品です。小「磯巾着の口」に何かが捕獲されている様子を描いた句は

磯巾着に喰はれてるところが寒い 山田青京

でのリアリティです。
るところ」が痛いのではなく、「寒い」の一語は恐ろしいまの事実……に、打ちのめされそうになりました。「喰はれてになっていて、意識はあるのに「喰はれて」ていく我が身との句を読んだとたんに、我が身が小さなカサゴか何か

消化器の襞はすっぱい磯巾着

碧西里

にゃん

いう味覚表現に詩的リアリティがあります。に違いないと断定する。「磯巾着」に対する「すっぱい」とは(人間の胃壁のような酸性の消化液によって)「すっぱい」した。そんな面妖な生き物の「消化器」を想像し、その「襞」した。それな面妖な生き物の「消化器」を想像し、その「襞」のう回、「磯巾着」は、口も肛門も同じ一つの穴であるとい今回、「磯巾着」は、口も肛門も同じ一つの穴であるとい

磯巾着や美しければ人柱 きゅうもん@木ノ芽

の思いに心を衝かれました。
の思いに心を衝かれました。
彼女たちの魂が、「磯巾着」という
えた言葉でしょう。神の怒りを鎮めるために人柱として捧
えた言葉でしょう。神の怒りを鎮めるために人柱として捧
と調べを整えています。「人柱」とは、なんと惨い過去を抱

磯巾着しぼむ寂しきひかり蓄へて

ぐ

てよいと思います。 握が美しい一句。妖しいだけではない「磯巾着」の表現もあっはあんなふうな半透明の体となっているのだという詩的把沢山ありました。が、「寂しきひかり」を蓄えて、「磯巾着」は浮かんできます。当然ながら、この動詞が使われた句はは浮かんできます。当然ながら、この動詞が使われた句はは浮かんできます。当然ながら、この動詞が使われた句はは浮かんできます。

磯巾着ドイツの城のやうに咲く 常幸龍BCAD

い始めました。 たのかと。が、案外素直な感想だったのかもしれないと思たのかと。が、案外素直な感想だったのかもしれないと思

リティのある表現になったのではないかと。え~! と思った。その率直な感受が、結果的にオリジナイツの城」みたいな形や色のイソギンチャクに出会って、ヘ写真を眺めたりしたのでしょうか。その中に、いつか見た「ド 作者はきっと沢山の「磯巾着」の画像を見たり、図鑑の

磯巾着にしゃがめば温きわが菊座 いかちゃん

事です。

事です。

本の「磯巾着」は肛門にも似ているのですが、いかちゃん、お見想像する、のが俳句という文芸において必要とされる想像と笑ってしまいました。「温き」が虚のリアリティ。五感でと笑ってしまいました。「温き」が虚のリアリティ。五感でいるをつると、私は考えているのですが、いかちゃん、お見がであると、私は考えているのですが、いかちゃん、お見がであると、私は考えているのですが、いかであると、私は考えているのですが、いからことで「菊座」といいのですが。

磯巾着と思へば腹も立たぬなり 斉藤立夏

ネル』において、引き続き悪態俳句募集してます(笑)。ともないと思えてくる。YouTube『夏井いつき俳句チャンの人、磯巾着だから」と呟いてみれば、腹立てるほどのこ物に対して、とにかく腹が立ってしまう。が、それも「あ最後の一句は、悪態俳句ですね。身近なところにいる人

第59回 2021年3月22日週掲載

卒業

である。 である。 進路や境遇、年齢により卒業の感慨は様々 はて行われる。 進路や境遇、年齢により卒業の感慨は様々

天

卒業すいちばん遠き木に触れて 山田蹴人

句想の肝となります。が、その気持ちを、どんな動作で表現するか、そこがこのが、その気持ちを、どんな動作で表現するか、そこがこのか去りがたい。そんな気持ちを詠んだ句も色々ありました。言葉も交わし、充分に別れを惜しんだのだけれど、なんだ言葉も交わし、充分に別れを惜しんだの話を聞き、級友たちと卒業式も終わり、教室での担任の話を聞き、級友たちと

のようでもあります。日のささやかな感慨、名残惜しさは、まるで樹皮の手触りきて、おもむろにその木肌に「触れ」るのです。「卒業」のき出す。グランドの隅の「いちばん遠き木」のところまで校舎を出て、自分の教室を見上げ、校庭をゆっくりと歩

作品です。言葉にしにくい感情を、さりげない動作で表現した上質な的であったかのように、静かに離れていく。「卒業」の日のこれ以上することもなく、まるでその木に触れるのが目

地

日章旗のゆたかに垂れて卒業式

馬祥

れています。
れています。
られることによって、その場の心情や様子がリアルに描かジに対して、「垂れて」という負のイメージの言葉が合わせが、中七の描写が巧いですね。「ゆたか」という正のイメー「日章旗」と「卒業式」の取り合わせはベタではあります

卒業や蘇鉄の影の獣めくめぐみの樹

ら生まれる「獣めく」という感知なのでしょう。対する厳粛なイメージ、喜びと不安が交錯する心情などかのですね。その「影」が「獣」のように見える。「卒業」に学校の講堂の外には、大きな「蘇鉄」が植えられている

思ってたより卒業は喉にくる

広木登一

季語の持つ主たる成分の一つを、率直に述べた作品です。す。「喉にくる」に素直な心情もあります。「卒業」というがあります。「思ってたより」にささやかな強がりもありま正直なつぶやきに過ぎませんが、だからこそのリアリティ

卒業式いやいや来賓が泣くか

木江

いました。

卒業生たちの涙に誘われたか、ご自分の卒業を思い出し卒業生たちの涙に誘われたか、ご自分の卒業を思い出したのが目に入ったとたん、こか。「来賓」のお一人が泣き出したのが目に入ったとたん、こりの感情の沸点が少し下がってしまったのですね。「いたか。「来賓」のお一人が泣き出したのが目に入ったとたん、ご自分の卒業を思い出し

メダカ基金繰越をして卒業す

さるぼぼ @ チーム天地夢遥

児童会の会計の仕事としての「繰越」なのかな。
カ基金」と名がつくのですから、理科室の水槽ではなさそう。校庭の池で飼っている目高でしょうか。わざわざ「メダ

業」となるのか。る「基金」かも。となると、これはRTAの仕事からの「卒立てた命名かもしれないぞ。困難を抱えている子を支援すいや、待てよ。育っていく子どもたちを「メダカ」に見

を楽しませてもらった作品です。り組んでいるのかもしれない。……と、こんな具合に読み話も聞いたな。だとすると、学校全体で環境保全活動に取いつだったか、メダカが絶滅危惧種になっているという

卒業の百の机の暗い口

稗田鈴二郎

く読み手の心に刺さります。現場を思う時、「暗い口」という詩語の持つ暗喩は、深く深いるのは、生徒でしょうか、教師でしょうか。厳しい学校を眺めている映像を思いました。下五「暗い口」と感じて中学か高校。生徒のいない廊下を歩きながら教室一つ一つ中学か高校。生徒のいない廊下を歩きながら教室一つ一つ

取りに来ぬ卒業証書窓を雨もせきのこ

は映像でありつつ、心理も示唆しています。に頭を悩ませる学生課の職員かもしれません。下五「窓を雨」暴力の限りを尽くした高校生か。はたまた、ズボラな学生ずっと不登校だった子の「卒業証書」でしょうか。校内

卒業や新調したる聴診器

星埜黴円

触は、意欲の象徴でもありますね。てくるモノの効果は絶大です。「聴診器」の新しいゴムの感この句はあきらかに大学の医学部。「新調したる」の後にでの卒業なのかを明確に描くというのも、一つの切り口です。「卒業」は、小学校から大学までありますから、どの時期

卒業の日にインド行くやつがあるか馬鹿

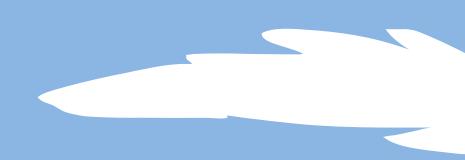
二浦にゃじろう

う可能性もありますね。直接、欠席の連絡が届いたのかも。ならば、親の台詞というで、友人たちが答えているのか。あるいはLINEで、なんでアイツ、卒業式に来てないんだ?」という教授の

逞しく生きていきそうな卒業子です。あるか馬鹿」という言い回しに、親愛の情も読み取れます。「インド行くやつ」という表現で大学だと分かり、「~が

ごくだうもげだうもタコも卒業す 影山らてん

ありません。
に、「ごくだう」も「げだう」も「タコ」も気づくに違いいている担任を思いました。その担任の目に涙があるこらが卒業すれば、わしゃセイセイする、なんて憎まれ口をらが卒業すれば、わしゃセイセイする、なんて憎まれ口をいるしまいました。ヤンチャばかりの高校を思いまし笑ってしまいました。ヤンチャばかりの高校を思いまし



制作 化山市

